

木質工事特記仕様書

1. 一般事項

●は適用項目を示すものとする。

(1) 適用範囲
本仕様書は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

(2) 設計図書
設計図書とは標準図、特記仕様書、設計図、指示書(現場説明書及び質疑回答書を含む)をいう。

(3) 準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。(※全て最新版による。)
「木造住宅工事仕様書」(住宅金融支援機構監修)
「公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版」(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
「木造計画・設計基準 令和6年版」(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」(2017年版)(日本住宅・木材技術センター)
「日本工業規格 JIS J3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)
「木質構造設計規程・同解説」(2006年版)(日本建築学会)
上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

(4) 設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 質疑回答書 2. 現場説明書 3. 特記仕様書 4. 設計図 5. 標準仕様書

(5) 設計図の表現
設計図上”化粧”とある表記は、プレーナー仕上げ若しくはサンダー掛け程度を示す。

(6) 疑義
疑義を生じた場合は監理者に申し出、その処理方法について協議する。

(7) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出
□ 工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

(8) 施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち施工図を作成し監理者の承諾を受ける。
プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

(9) 製作工場・プレカット工場の選定
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場、プレカット工場及び木工技能者を選定する。

(10) 各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2. 材料の品質

●は適用項目を示すものとする。

2.1 木質材料

(1) 構造用集成材、構造用単板積層材 (LVL)
本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用集成材・LVL】
ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部 位	樹種名	品 名 (LVLの場合は区分)	強度等級 (LVLの場合は曲げ性能)	材面の品質	使用環境	ホルムアルデヒド放 散 量
柱、束、筋かい	唐松	対称異等級	E95-F270	2種	A	F☆☆☆☆
梁、母屋	唐松	対称異等級	E95-F270	2種	A	F☆☆☆☆

(2) 構造用製材
本項の内容は特記無き限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
土台・大引き	桧	E70以上又は甲種2級以上	SD20	指定なし	
垂木・間柱	杉	下地JASS2級以上	SD20	指定なし	

□ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
背割りを行う部材の有無
□ 有 (背割りを行う場合は、見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。)
● 無
● 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等注意到意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように注意する。
□ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級1級相当とする。

(3) 構造用合板、構造用パネル (OSB) 、パーティクルボード、 MDF 等
本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格又はパーティクルボード、及び MDF 等の日本工業規格に準拠する。
●【構造用合板・構造用パネル (OSB) 、パーティクルボード、MDF 等】
最板の樹種及び構成や防虫処理については必要に応じて特記する。

部 位	強度等級 (OSBの場合は曲げ性能)	板面の品質 (注1)	接着の程度 (構造用合板の場合に記入)	寸 法	ホルムアルデヒド放 散 量
壁	2級	C-D	特類	9mm/12mm	F☆☆☆☆
床	2級	C-D	特類	24mm	F☆☆☆☆
屋根	2級	C-D	特類	12mm	F☆☆☆☆

※1. 構造用合板の板面の品質は、通常は1級がB-C、2級がC-D
OSBの場合は、表面及び裏面に木材の小片の浮き上がりがないこと及び側面の切断面が平滑であること。
※2. 特注品の場合は納期に注意すること (2ヶ月以上)

(4) 丸太・そま角
本項の内容は特記無き限り、素材の日本農林規格などに準拠する。
□【丸太・そま角】

部 位	樹種名	縦振動ヤング係数区分	等 級

2.2 接合具

接合具の材質は一般普及品を使用することを原則とし、特殊なものを使用したい場合は特記とする。
接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。
標準めっき処理は溶融亜鉛めっき鋼板：Z27 (JIS G 3302) 電気亜鉛めっき：Ep-Fe/Zn8/CM2 とする。

(1) くぎ、木ネジ

種 類	材 質	使用箇所	頭部／胴部形状		
● タン釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N	補強金物類	平頭フラット／バープ
● CN釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N	壁、床、屋根合板	平頭フラット
●					

(2) 木質構造用ビス

製品名	径 (mm)	長さ (mm)	使用箇所
● タルクックⅡ TK6×185Ⅱ	6.0	185.0	垂木
□ バネリードⅡ* P6×90Ⅱ*	6.0	90.0	合せ梁
□			

(3) ボルト、ナット、座金
ボルト・ナットは JIS B 1180、 JIS B 1181 の規格及び付属書 JA による。

種 類	材 質	径 (mm)	防錆処理、使用箇所など		
●呼び径六角ボルト □有効径六角ボルト □全ネジボルト □	鉄	JIS B 1180 JIS B 1181 JIS B 1051	強度区分4.6又は4.8、4T以上に適合する炭素鋼	12	● 電気亜鉛めっき □ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
●アンカーボルト □	鉄	JIS G 3101 JIS G 3138 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SNR400B、490B SWRM8～10 SWRCH8～10	12、16	● 電気亜鉛めっき □ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
□角座金 ●丸座金 □	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400	12	● 電気亜鉛めっき □ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地

※設計図及び標準図記載以外の座金は、特記なき限り用途と (引張、せん断) に下表により使い分ける。
尚、ボルトとの組み合わせにより耐力が決まっている羽子板ボルト等の座金は、その仕様準ずる。(単位：mm)

座金の大きさ	ボルト径	6	10	12	16	20	24
	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
引張を受けるボルト	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	66	70	90	120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	86

(4) ドリフトピン、ラグスクリュー、木栓

種 類	材 質	径 (mm)	長さ (mm)	防錆処理、使用箇所など	
●ドリフトピン	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 4051	SS400 SWRM8～12 S10C	13 85,115,135,165,215	● 溶融亜鉛めっき ● 電気亜鉛めっき
●ラグスクリュー (コーナボルト)	鉄	JIS B 1180 JIS B 1051 JIS G 3101	強度区分4.6 又は、4.8 SS400	12 110	● 電気亜鉛めっき □ ()
□木栓	堅木 (樹種：)				

※ドリフトピンの先端テープ部材の長さ：10mm 以下
※木栓はナラ・ケヤキ・カン等、気乾比重0.4以上の広葉樹で、節や目切れ等の欠点の無いものとし
先端は、3～5mm程度直取りすること。

(5) 接合金物、鋼材

種 類	品 名	メーカー等	防錆処理、使用箇所など
□筋かい耐力壁の接合部			□溶融亜鉛めっき □電気亜鉛めっき □溶融亜鉛めっき □電気亜鉛めっき
●柱頭・柱脚接合部 (小型接合金物)	B120 SB-C SPT-10 M120	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13802-05) Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13813-01)	●溶融亜鉛めっき ●溶融亜鉛めっき ●溶融亜鉛めっき
● 横架材接合部 (小型接合金物)	J-18 J-24 J-36	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-01) Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-02) Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-03)	●溶融亜鉛めっき ●溶融亜鉛めっき ●溶融亜鉛めっき
●接合部 (製作金物)	設計図による		●溶融亜鉛めっき ●禁止の塗装

※Sマーク表示金物はKESコンクレー又は同等以上耐力を有するものとする。
※Sマーク表示金物は認定工場 (公財) 日本住宅・木材技術センター 性能認定金物) により製作、管理されたものとし、品質基準は同認定内容に準ずる。
※製作金物は設計図に示す。

・ボルト類

BT M	ボルト
LSB M	ラグスクリュー
DP φ	ドリフトピン
A.bolt M	アンカーボルト
HTB M	ハイテンションボルト

・鋼板類

PL	鋼板
B.PL	ベースプレート
G.PL	ガセットプレート
R.PL	リブプレート
FB	フラットバー

(6) 接着剤 (接着接合)
ここである接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とする。

製品名	使用箇所	備 考
□		
□		
□		

3. 耐久性 (防腐・防蟻・耐候処理)

●は適用項目を示すものとする。

(1) 木材の防腐・防蟻処理
木材の防腐・防蟻処理は以下のいずれかとする。
・高耐久材の使用 (注：部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする)
・工場処理材 (注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる)
保存処理材 (性能区分) ： K5 K4 K3 K2 K1
A0認証保存処理材 ： 1種 2種 3種
・現場処理： 塗布、吹付、浸漬 (特記無き場合は、処理量：300ml/m2、処理回数：2回)
(※接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)
使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理
土台	●(心材または心持ち材	□ K3 □ ()	□ 塗布
外周柱下部 1m	□ ()	□ K3 □ ()	● (塗布)
外周筋かい下部 1m	□ ()	□ K3 □ ()	● (塗布)
外周木質系面材耐力壁下部 1m	□ ()	□ K3 □ ()	● (塗布)
水周り	□ ()	□ K3 □ ()	● (塗布)
その他	□ ()	□ K3 □ ()	□ ()

(2) 土壌処理
□ 防蟻薬剤による処理：薬剤 ()
特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
● 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策
□ 土壌処理省略 □ 北海道 □ 東北 □ 北陸 □ ()
(※処理範囲は、外周部布基礎の内側、内郭布基礎の周辺20cm、東石等の周囲20cmを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)

(3) 耐候処理 (塗装)：劣悪環境に置かれる木材等を対象とする。

部位	製品名 (会社名)	塗り回数

4. 材料品質の検査方法

●は適用項目を示すものとする。

(1) 構造用集成材、構造用単板積層材 (LVL)
・搬入された製品について下記の項目の受け入れ検査を実施し、特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、日本農林規格 (JAS) の表示ラベル、または 納品書で確認すること。

(2) 構造用製材
現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の項目で受け入れ検査を実施し、記録を残す。また施工者の立会いを要する検査については、指定された検査要領に基づいて、適時抜き取り検査を実施する。
検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。
検査項目
●含水率測定 ● 抜き取り (部位：柱、梁、土台、大引) □ 全数
●材種・等級の確認 ● 抜き取り (部位：柱、梁、土台、大引) □ 全数
●外観検査 ● 抜き取り (部位：柱、梁、土台、大引) □ 全数
●寸法検査 ● 抜き取り (部位：柱、梁、土台、大引) □ 全数
・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数は表示ラベル、刻印された表示で確認し、化粧材は納品書で確認する。
・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材受け入れ時に行う。

(3) 構造用合板、構造用パネル等
・搬入される製品について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、印字にて確認すること。

(4) 接合具
・現場または加工工場に搬入される接合具について抜き取りでの受け入れ検査を実施し、材質、径、長さ製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

(5) 接合金物
・現場または加工工場に搬入される製作金物について受け入れ検査を実施し、形状、製品名等について特記仕様書等+詳細図で指定された製品であることを確認すること。
・同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

5. 木材の加工

●は適用項目を示すものとする。

(1) 加工寸法の精度
図面表示は仕上がり寸法である。
下記を除き、 2. 1 木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なしとなっている場合は、協議による。
構造用製材、構造用集成材、 LVL の材長
● 軸組工法法の継ぎ手仕口及び金物工法の場合：小中断面：±1.0mm、大断面：±2.0mm以下
せん断用ボルト穴径 (dはボルト径)
集成材： d+1.0mm (d≦M12)、d+2.0mm (d≧M16)
接合金物等： d+1.0mm (d<M12)、d+1.5mm (d≧M12)
ドリフトピンの接合金物等の穴径：d+1.0mm (d≦M12)、d+1.5mm (d≧M16)
(dはドリフトピン径)
(2) 刻み時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

(3) 表面仕上げ
□ 製材 () □ 集成材・LVL () □ その他 ()
(4) 面取り
□ 柱： () mm □ 梁： () mm
(5) 加工状況の検査
□ 立ち会い検査
□ 外観検査 □ 加工寸法検査
● 自主検査記録の提出

6. 運搬・建方

●は適用項目を示すものとする。

(1) 輸送計画
製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
□ 輸送計画書の提出
(2) 集積・保管
集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。
降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。
□ 集積場の確認
(3) 建方計画
□ 建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。
(4) 施工時の安全性
建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
□ 施工時の安全性に対する検討書の提出 □ 施工時荷重条件の通知
(5) アンカーボルトの施工
・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。
● 適用除外 [Sマーク金物の仕様による場合]
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。
(6) 建方精度
・建方の精度基準は下記による。
※建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 建物の倒れ： ● e ≦ H / 2500+10mm かつ e ≦ 50mm
□ []
● 梁の水平度： ● e ≦ L / 700+5mm かつ e ≦ 15mm
(節点間のレベル差) □ []
● 建物のわん曲： ● e ≦ L / 2500mm かつ e ≦ 25mm
□ []
● 柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差： ● ±3mm以下 □ []
通り芯からの誤差： ● ±3mm以下 □ []
階 高： ● -5mm ≦ ΔH≦+5mm
□ []
(7) 施工状況の検査
□ アンカーボルト施工時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
□ 地組み時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
□ 建方時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
□ 建方後の施工状況の検査
● 施工者自主検査記録の提出
□ 最終確認
工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等注意到意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 施工者自主検査記録の提出

7. 耐火性能

●は適用項目を示すものとする。

耐火性能	主要構造部の構造方法
□45分準耐火構造 建築基準法第2条第7号のニイ準耐火建築物仕様	国土交通省告示 第1358号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 35 mm 梁 35 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 45 mm 梁 45 mm
□1時間準耐火構造 建築基準法令112条第2項	国土交通省告示 第195号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 45 mm 梁 45 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 60 mm 梁 60 mm
●耐火構造	国土交通省告示 第1399号 一般社団法人日本木造住宅産業協会認定仕様 一般社団法人日本木造耐火建築協会認定仕様
□主要構造部を木造とすることができる大規模の建築物 建築基準法令129条の2第3	国土交通省告示 第1902号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 25 mm 梁 25 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 30 mm 梁 30 mm

特 記

測量年月日

作成年月日

訂正年月日

TAKAHASHI ARCHITECTS-ENGINEERS

管理建築士 一級建築士登録 275483

設 計

製 図

検 閲

設計NO.

名 称
会津森林管理署南会津支署南会津宿舍新築工事

図面NO.

縮尺
A1：
A3：

図面名
木質工事特記仕様書

S-02

株式会社 高橋建築設計事務所

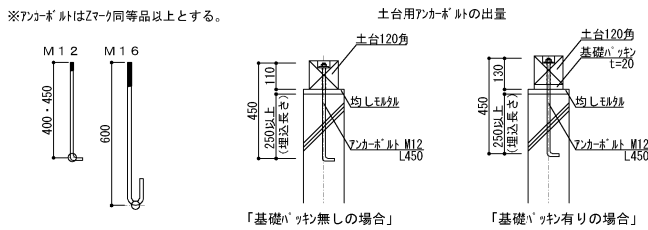
高橋 潤

木造標準図（１）

１．基礎

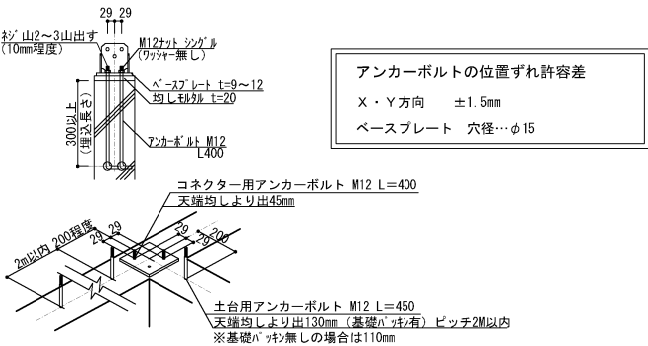
（１）アンカーボルトの設置

※アンカーボルトはZマーク同等品以上とする。

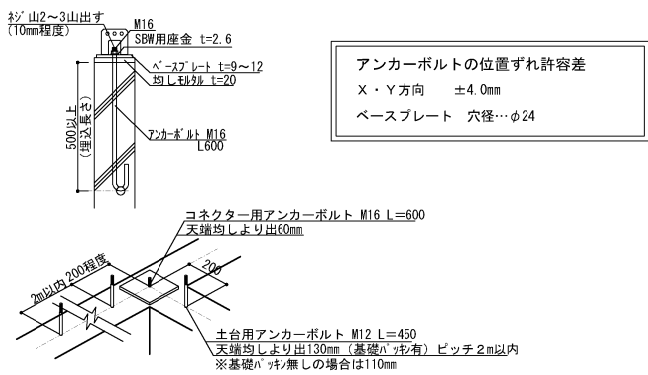


（２）Ｂコネクターの設置

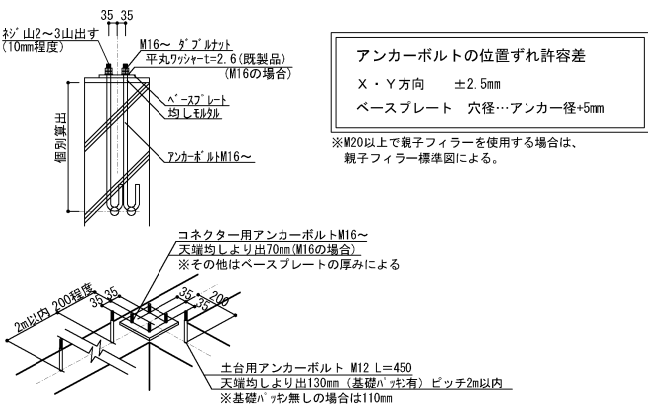
① Ｂ１２０コネクター（性能認定）



② ＳＢ-Wコネクター（性能認定）



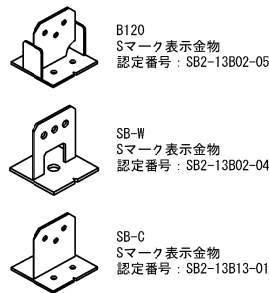
③ 製作柱脚コネクター（アンカーボルトM16以上で2列配置のもの）



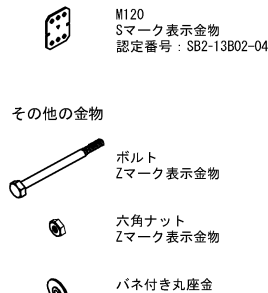
※特殊形状コネクターのアンカーボルトでM16を使用し、かつ、SB-Wコネクターが混同している場合は、SB-Wコネクターもダブルナットとする。

２．接合金物形状図

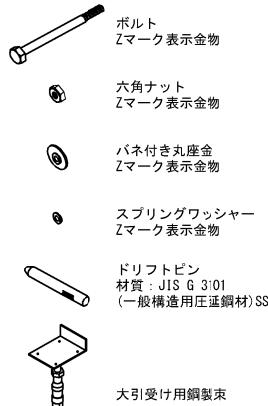
Ｂコネクター



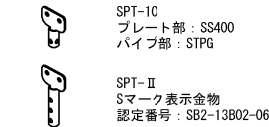
Ｍコネクター



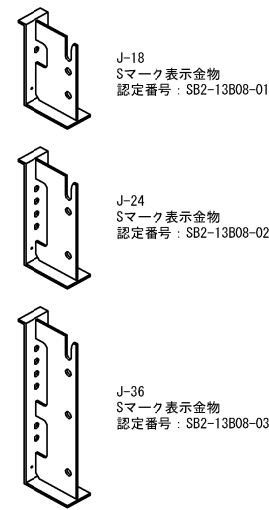
その他の金物



Ｐコネクター

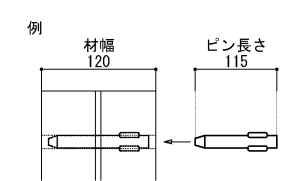


Ｊコネクター

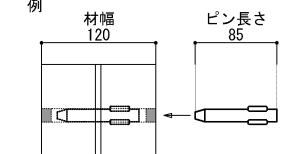


３．ドリフトピン（φ13）の長さ

（１）標準のドリフトピン長さ



（２）化粧材に打込むドリフトピン長さ



標準のドリフトピン長さ
材幅120 ～ 139 → ピン長さ115
材幅140 ～ 169 → ピン長さ135
材幅170 ～ 219 → ピン長さ165
材幅220 → ピン長さ215

化粧材に打込むドリフトピン長さ
材幅120 ～ 139 → ピン長さ 85
材幅140 ～ 169 → ピン長さ115
材幅170 ～ 219 → ピン長さ135
材幅220 → ピン長さ165

※化粧材のドリフトピンの打込みは、材幅に対して 1サイズ短いドリフトピンを使用する。
※ドリフトピンは材の中心まで追加で打込み、ピン穴は材の両側から埋木を取り付ける。
※埋木の取付け方法は施工マニュアル参照

４．化粧材の面取り加工

標準寸法表

H 材幅	材幅 W		
	105～140	141～170	171～220
140以下	糸面	3mm	3mm
170以下	3mm	3mm	3mm
220以下	3mm	3mm	3mm
500以下	3mm	6mm	6mm
500超	6mm	6mm	6mm

※糸面：1mm程度とする

※梁の場合は、下端2面を表の面取り幅とし、
上端2面は糸面を原則とする。
※柱・方杖等は4面とする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

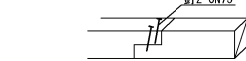
柱の丸面取り寸法表【老人福祉施設及び幼稚園、保育園】

H 材幅	材幅 W	
	140以下	140超
140以下	6R	6R
140超	6R	9R

※FLより2m程度の高さとする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

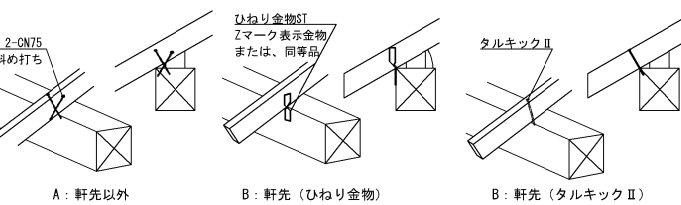
５．二次部材の納まり

（１）土台・大引継手

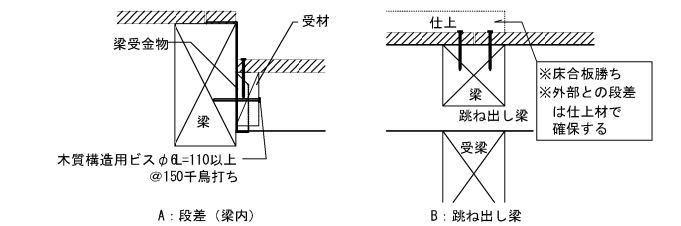


（２）垂木・母屋の接合部

※構造計算を行ない下記以外の納まりとする場合は、詳細図による。

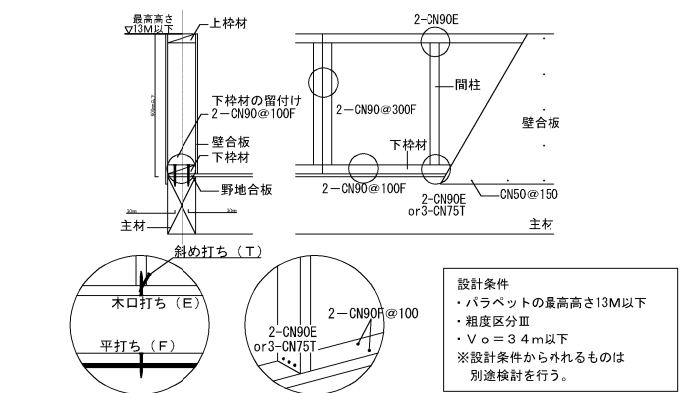


（３）床合板



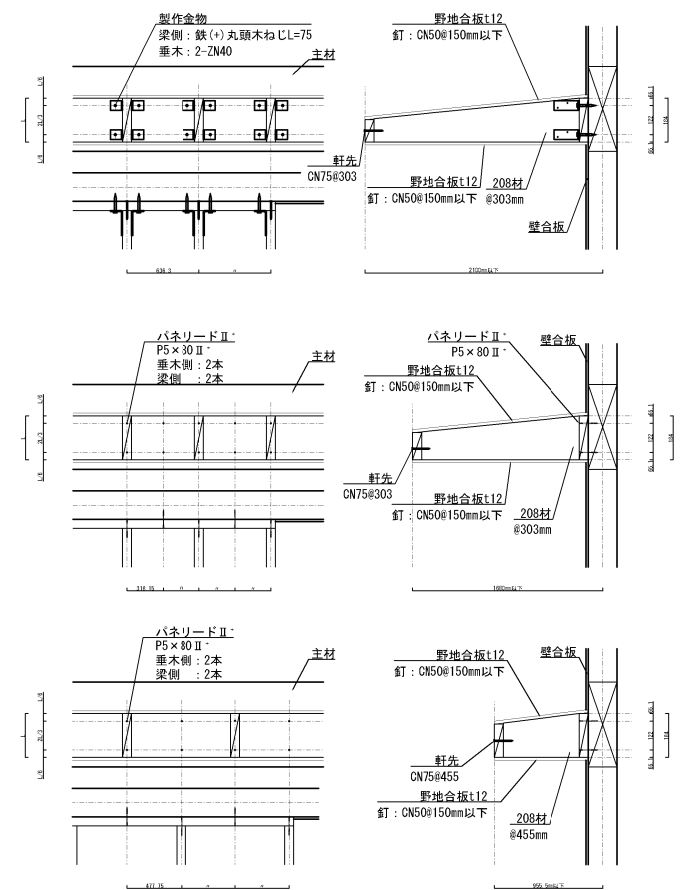
間柱のサイズ	間柱太の釘ピッチ		
	①150	②100	③75
38×140	2-N90@250 45 250 250 45	2-N90@200 45 200 200 200 45	2-N90@150 45 150 150 150 150 45
38×89	N90@125 70 125 125 125 125 70	N90@100 70 100 100 100 100 100 70	N90@75※千鳥打ちでも可 70 75 75 75 75 75 75 70
45×120	N90@125 44.5 125 125 125 125 44.5	N90@100 44.5 100 100 100 100 100 44.5	CN90@100 44.5 100 100 100 100 100 44.5
45×90	①150 2-N90@250 35 250 250 35	②100 2-N90@200 35 200 200 200 35	③75 2-N90@150 35 150 150 150 150 35
45×60	N90@125 100 125 125 125 125 100	N90@100 100 100 100 100 100 100	N90@75※千鳥打ちでも可 100 75 75 75 75 75 75 75

（４）バラベツト

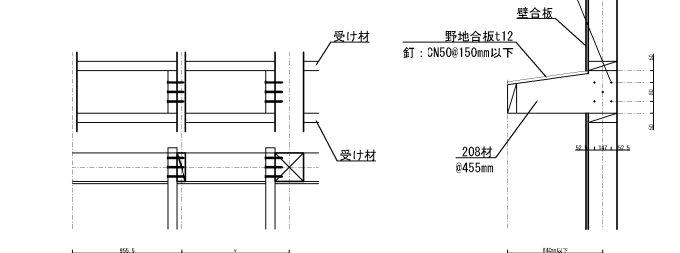


（５）付け庇

梁に取りつける場合
・底勾配は1.0寸までとする。
・壁合板施工前に取り付ける。
・垂木を格子状に組み立てた後、主材の梁にパネリドで留め付ける。



間柱に取りつける場合
・垂木幅は38mm以上とする。
・壁合板施工前に取り付ける。
・垂木の取付けは、間柱に型板を添えN70釘5本を平打ちする。



木造標準図（3）

6 B. 昭56建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

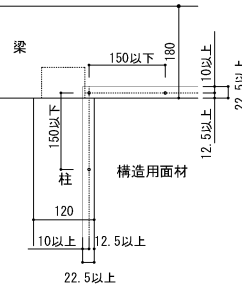
(注) (単位) mm

6B. 1 共通事項

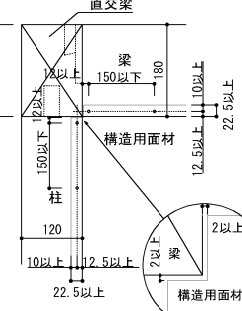
- ・面材は、9mm以上を標準とする。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および皮付き材は不可とし、四面ピン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。
記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ+1本」と読むこととする。

1. 直交梁との取り合い

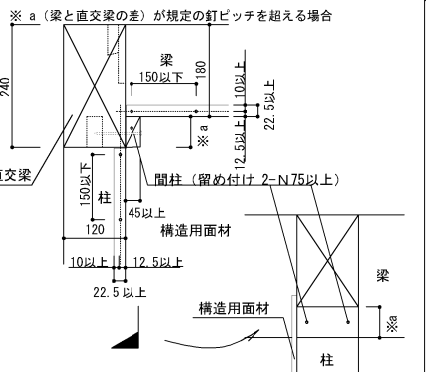
A : 通常



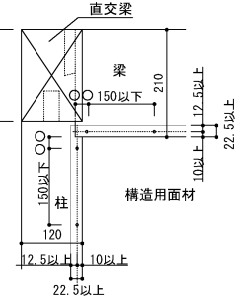
B : 合板端欠



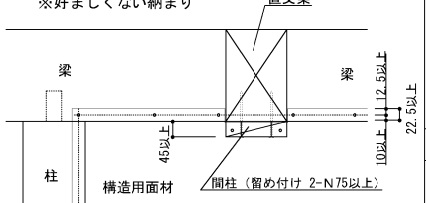
B-2 : 合板端欠



C : 柱持たせ

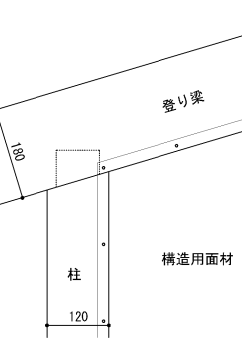


D : 耐力壁内に直交梁が在るとき

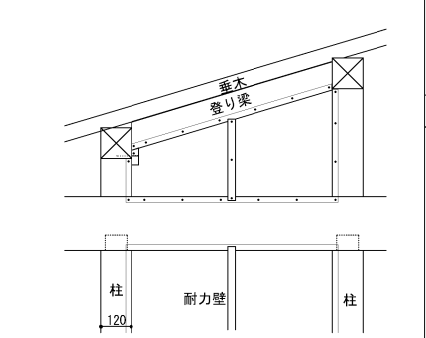


2. 勾配屋根の納まり

A : 登梁

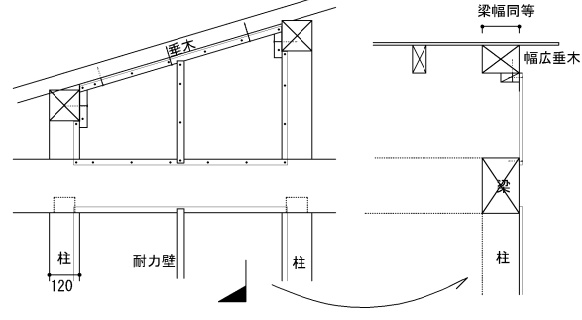


B : 妻側構面納まり



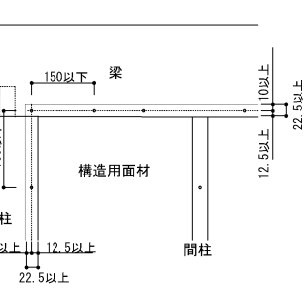
- ・開口直下の梁への間柱欠きは、原則行わない事。
- ・間柱（受材）を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。
※受け材厚 30mm の場合は、N75、CN75以上
※受け材厚 45mm（耐力壁：水平力のみを負担する場合）は、N90、CN90以上（真壁の受け材留め付けと合わせる）
※受け材厚 45mm（水平構面 鉛直力と水平力を負担する場合）は、N115、木質構造用ビス L110以上

C : 登梁無し妻構面

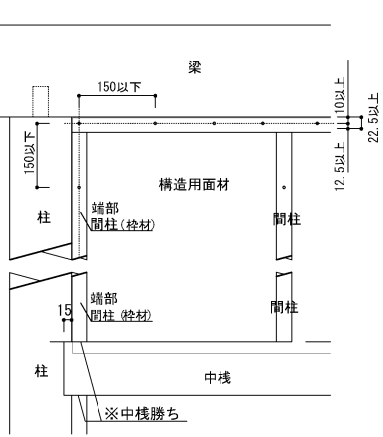


3. 受材・間柱勝ち負け、ルール

A : 枠無し

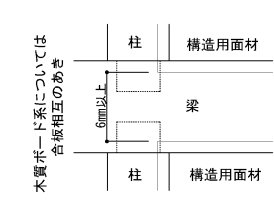


B : 枠有り

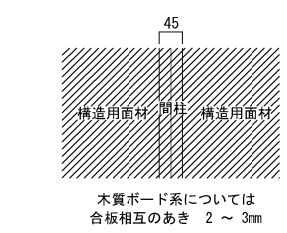


4. 面材相互あきのルール

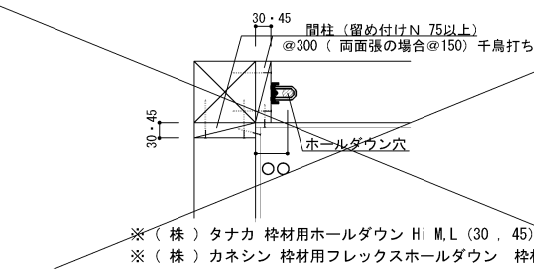
A : 上下面材あき



B : 間柱取付面材あき

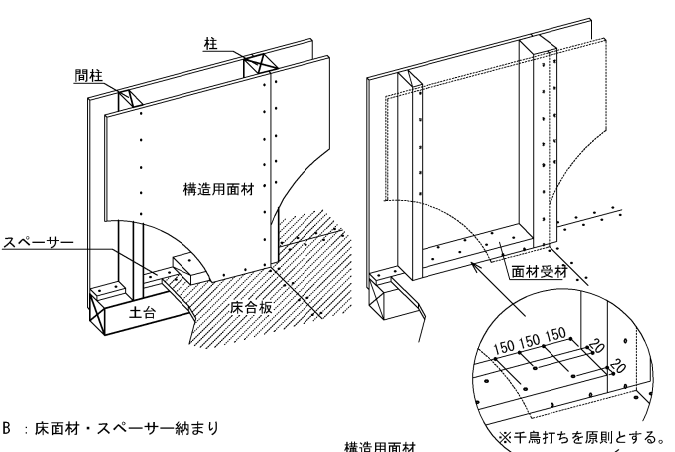


5. 入隅時納め、及び枠材用ホールダウン納め

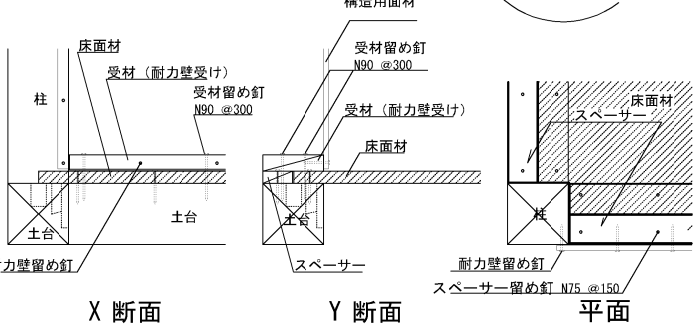


6. 床勝面材との取り合い

A : 面材受材納まり

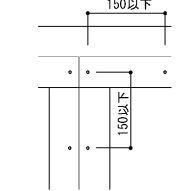


B : 床面材・スパーサー納まり

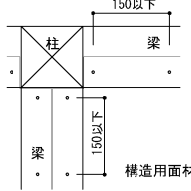


7. 水平構面

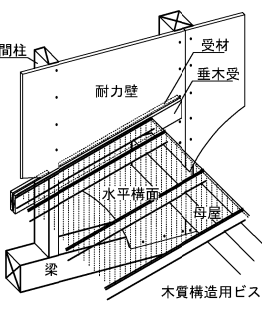
A : 通常



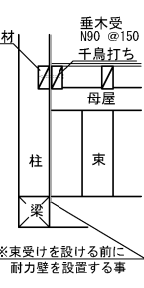
B : 合板端欠



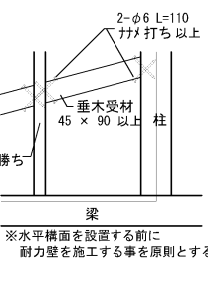
8. 下屋部分の納まり



A : 前束仕様

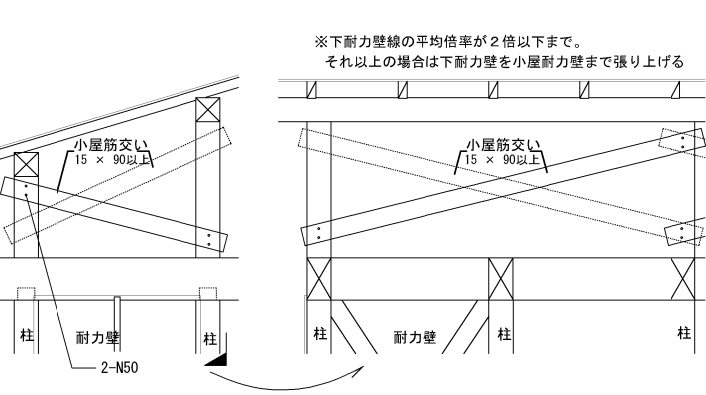


B : 中棧仕様

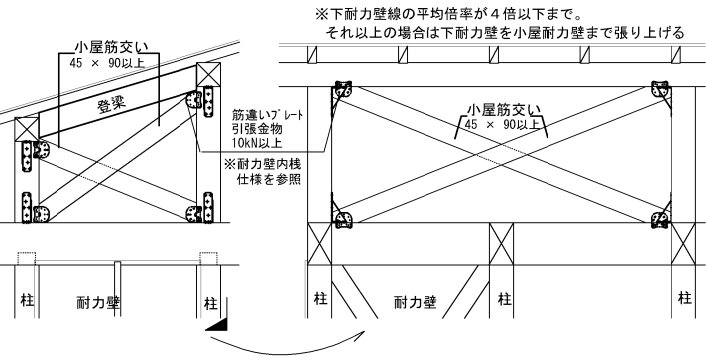


9. 小屋筋交い

A : 2倍耐力壁仕様



B : 4倍耐力壁仕様



木造標準図 (4)

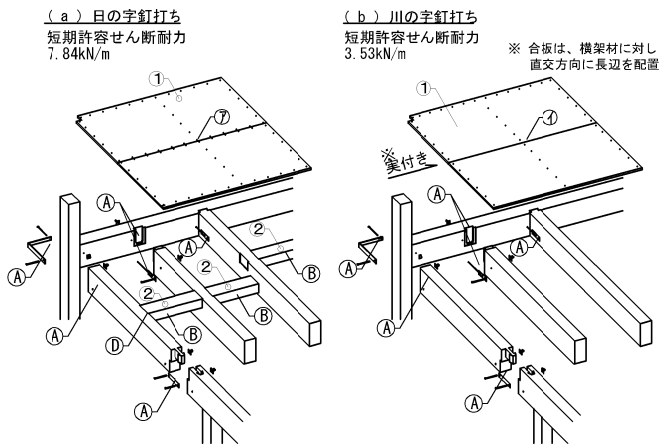
7. 水平構面

・木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。

- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面



① 各部材料および寸法

①	面材：構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
②	甲乙梁：幅 45mm 以上×せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下

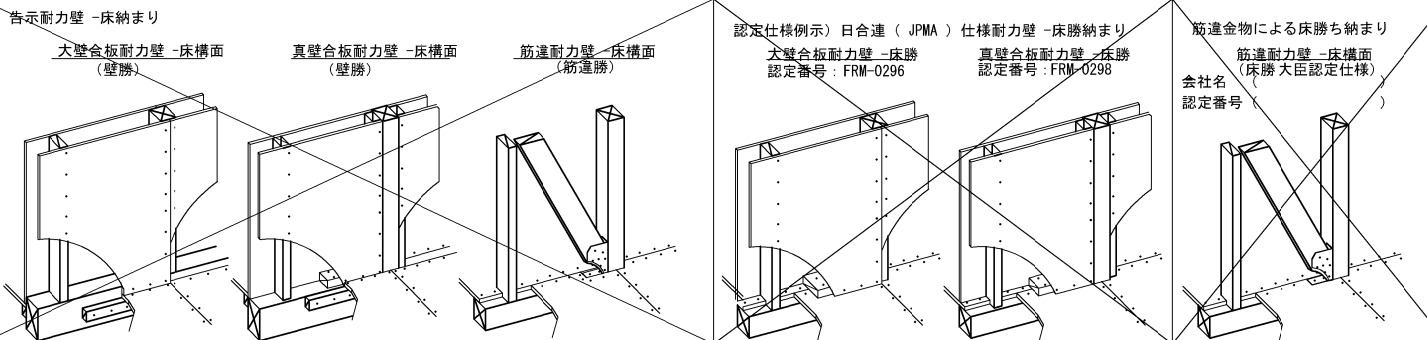
②) 各部仕口形状及び性能

①	各仕口部分： 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
②	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
③	高低差のある梁へは側面に床受付材を取り付け構造用合板を受ける構成
④	甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の犬入れ N75 1本斜め打ち

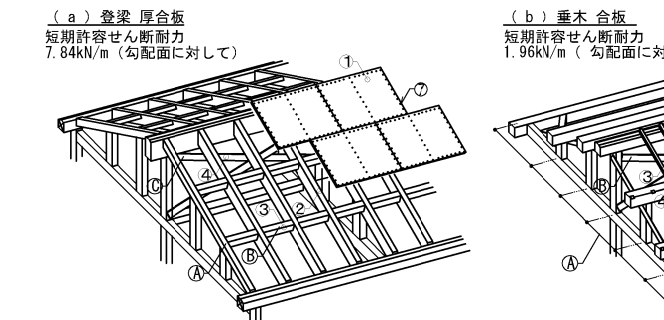
③) 各部への釘打ち及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@150mm 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
⑧	構造用合板はN75@150mm 川の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける ※ 構造用合板は、実付きとする ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。

注意事項：構造用合板（又は OSB ）に対する釘頭のみり込みは、2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちする構成
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、挟み等に注意する事



(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



Ⅲ 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横梁材に直貼
- ② 梁差：幅 105mm 以上×せい 105mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ③ 甲乙梁：幅 45mm 以上×せい 45mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ④ 小屋耐力壁： 15mm 以上× 90mm 以上
(端部は平 12 建角 1460 号の筋違耐力壁の接合)

2) 各部仕口形状及び性能

- ㊦ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ㊧ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ㊨ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の重量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

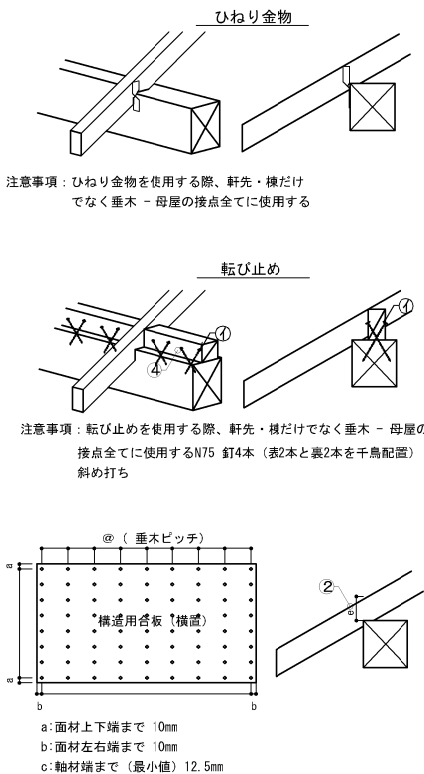
3) 各部への釘打及びビス止め

- ㊩ 構造用合板は $N75 \phi 150\text{mm}$ で日の字に垂木に留め付ける
- ※釘仕様の特記記載がある場合は、構造欠図の釘仕様を優先する。

注意事項：構造用合板 (又は OSB) に対する釘頭のめり込みは、 2mm

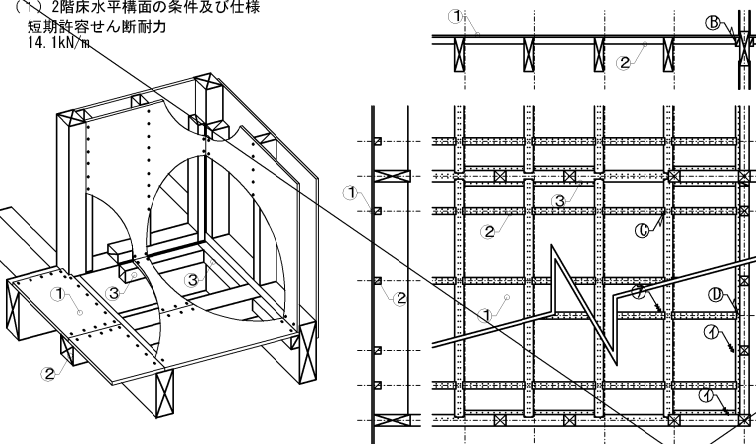
1	各部材料および寸法
①	面材：構造用合板t=9mm ~15mm (横置)
②	垂木：幅45mm以上×せい45mm ~90mm @500mm以下
③	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 (端部は平12 建告 1460号の筋違耐力壁の接合)
④	転び止め：45mm ×60mm 程度
2)	各部仕口形状及び性能
①	母屋ピッチ：1000mm以下
②	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁壁には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事
3)	各部への釘打及びビス止め
①	構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける ※釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
②	転び止めを梁に 2-N75 斜め釘止付
③	垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の 上面に対して N75 釘2本打ち

程度とする



7.3 JISA3301 仕様高耐力水平構面

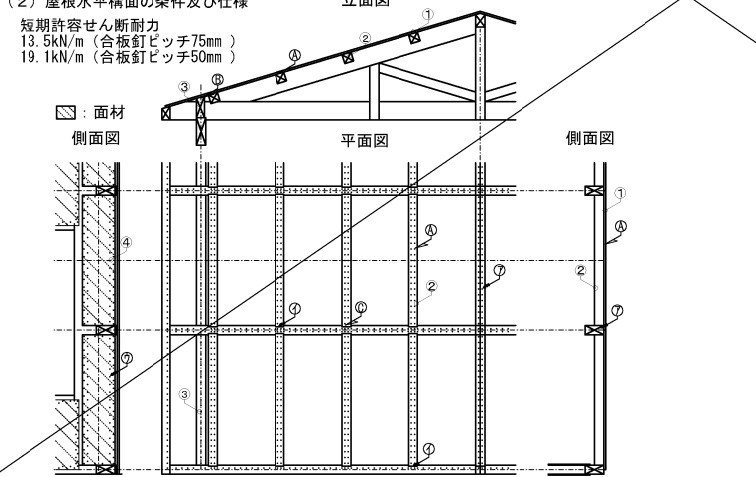
~~(1) 2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m~~



1)	各部材料
①	面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
②	甲乙梁： $90\text{mm} \times 90\text{mm}$ の正角材又は幅 $75\text{mm} \times$ 成 120mm 製材を平使い
③	大梁側面に取り付ける束受材：幅 $55\text{mm} \sim 75\text{mm} \times$ 成 120mm の製材
2)	各部仕口形状及び性能
①	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
②	高低差のある梁へは側面に束受材を取り付け構造用合板を受ける構成
③	甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
④	甲乙梁端部は束受材に対して束受材を深さ $15\text{mm} \times$ 成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし束受材材筋ちの納まりとする
3)	各部への釘打ち及び止め止め
①	構造用合板は $90 \times 75\text{mm}$ 目のヤ釘打ちで横架材、甲乙梁、束受材に留め付ける
②	大梁側面へ取り付ける束受材は木質構造用ビスφ、 $6.1\text{L}30 \sim 150$ を 150mm ビッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)

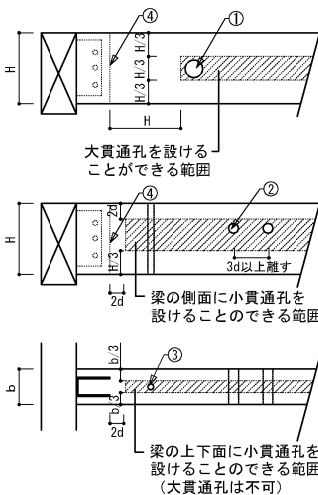


1) 各部材料
材材：構造用合板$t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り 母屋：幅$120\text{mm} \times$ 成120mm の製材 多雪区域（3級及び4級）の場合は幅$120\text{mm} \times$ 成150mm の製材 軒先軋び止め：幅$105\text{mm} \times$ 成300mm の製材を用い、先端は屋根面に合わせ切り欠く 軒先軋び止めの外面に直張りする構造用合板：$t=12\text{mm}$
2) 各部仕口形状及び性能
構造用合板の継目及び釘打を行う部分の直下には母屋を設ける 屋根の設けレベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に 軋び止めの板を設け構造用合板を受ける構成 母屋端部は登梁に対して深さ15mm 程度の大入れ
3) 各部への釘打及びビス止め
13.5kN/m²仕様：構造用合板はN75ϕ75mm 4周（口の字） 釘打で登梁及び母屋に留め付ける 19.1kN/m²仕様：構造用合板はN75ϕ90mm 4周（口の字） 釘打で登梁及び母屋に留め付ける 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス$\phi 5$, L150 （頭部径$\phi 12.5$以上ねじ部長さ 50以上）1本を斜め打ちとする 軒先大梁と軋び止めの外面に直張りする構造用合板は、 N50$\times$ ぎを 50mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

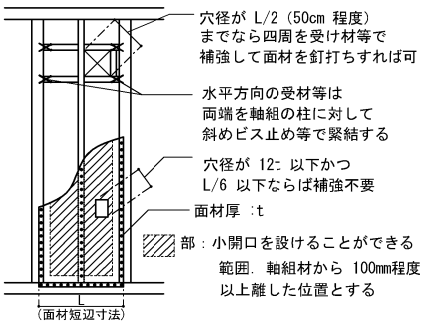
- | | |
|---|-------------------------------------|
| ① | 大貫通孔: $d \leq H/4$ かつ150mm |
| ② | 小貫通孔: $d \leq 30$ mm (隣り合う孔は3d以上離す) |
| ③ | 縦小貫通孔: $d \leq b/6$ かつ30mm |
| ④ | 接合金物用切り欠きライン |



8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 年版）

※壁倍率 7 倍までの孔開けルール



8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 年版）

※壁倍率 7 倍までの孔開けルール

(2) 高耐力仕様合板貼耐力壁 (JISA3301 標準仕様)
※壁倍率 7 倍を超える場合の孔開けルール (JISA3301)

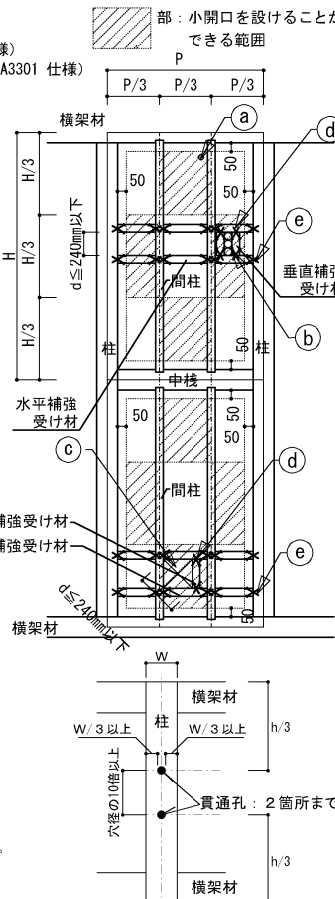
※壁倍率 7 倍を超える場合の孔開けルール (JISA3301 仕様)

a) 貫通孔基準

- | |
|---|
| <p>④ 小貫通孔 (d≤30mm)
1区画につき 1か所までなら補強不要</p> |
| <p>⑤ 小貫通孔×3 (外接円の径d≤240mm)
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可</p> |
| <p>⑥ 大貫通孔 (d≤240mm)
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可</p> |

b) 釘打ち及び断面

- ⑤ 合板から補強受材へ N50@90mm で釘打ち
補強受材は間柱と同寸以上の断面
- ⑥ 補強受け材の留め付けは斜めビス 2 本止め



8.3 柱貫通孔の条件及び仕様

柱幅W	最大穴径
120mm以上	30mm以下
105mm	20mm以下

※貫通孔は2箇所までとする。
 ※上記より貫通孔を大きくするときは設計者の確認をとる。
 ※方杖が取り付く柱においては水平力を負担するので貫通孔を設けないこと。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）適用範囲

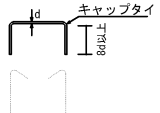
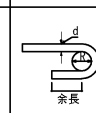
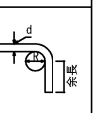
構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
@…間隔 r…半径 c…中心線 h_a…部材間の内法高さ
ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度 90° はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む「形および」形梁のキャップタイにのみ用いる。 
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※ 4d以上）	8d以上（※ 4d以上）	
折曲げ内法寸法R は、SR235は 3d以上、SD295A、SD295B SD345の D16以下は、3d以上、D19以上は 4d以上				

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折曲げ角度 90° 以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ 以上 19φ D16 以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以上 19φ ~ 25φ D19 ~ D25 28φ ~ 32φ D29 ~ D38	6d以上 8d以上

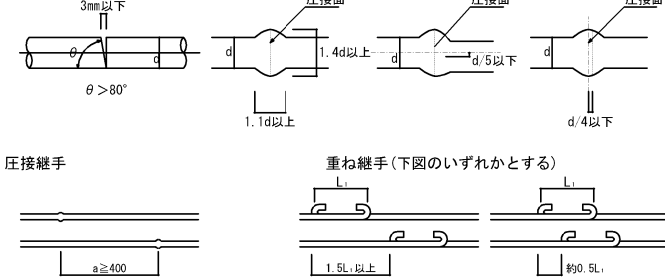
（３）鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L _i)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₁)		
			小梁	スラブ	
SR235	21 ～ 36	35dフックつき	25dフックつき	15dフックつき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき			45dフックつき
SD295A SD295B SD345	21 ～ 36	35d または 25dフックつき	25d または 15dフックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30dフックつき
	18以下	40d または 30dフックつき			45d または 35dフックつき

継手

- ・末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- ・継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- ・直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- ・D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- ・鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



（４）かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など数部のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位	設計かぶり厚さ最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 30 20
	床スラブ 40 30(20)
	非耐力壁 40 30
	耐力壁 50 40(30)
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁 50 40 ⁽¹⁾
	基礎・擁壁 70 60 ⁽¹⁾

※(1) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
※() 内は仕上げがある場合。

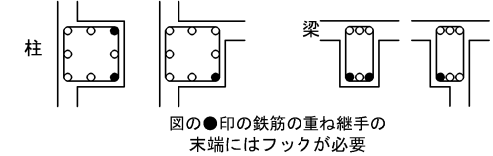
（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d以上 粗骨材の最大寸法の 1/25倍以上かつ 25以上



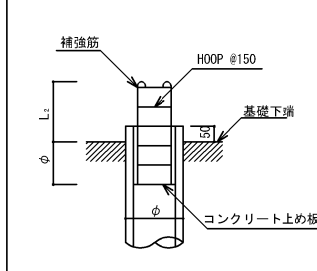
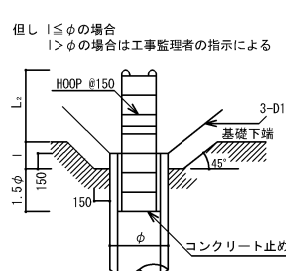
（６）鉄筋のフック (a-f に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a : 丸鋼 b : あばら筋・帯筋 c : 煙突の鉄筋
d : 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
e : 単純梁の下端筋
f : その他、本配筋標準に記載する箇所

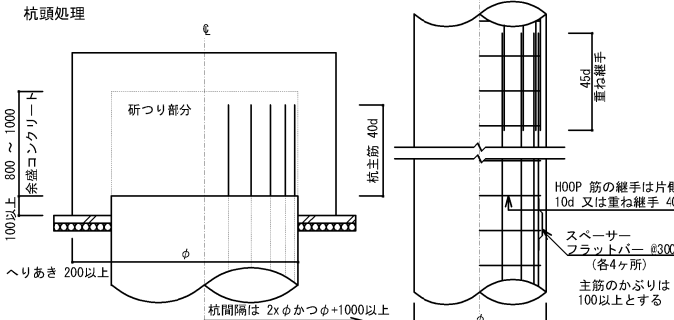


３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

（１）PC杭、又は PHC杭の全てに補強を行う

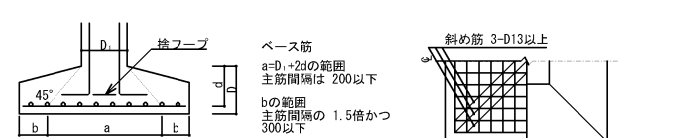
所定の場所に止まった場合		所定より低く止まった場合		
				
杭 径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16
H O O P			D10-@150	10-D16

（２）現場打ちコンクリート杭

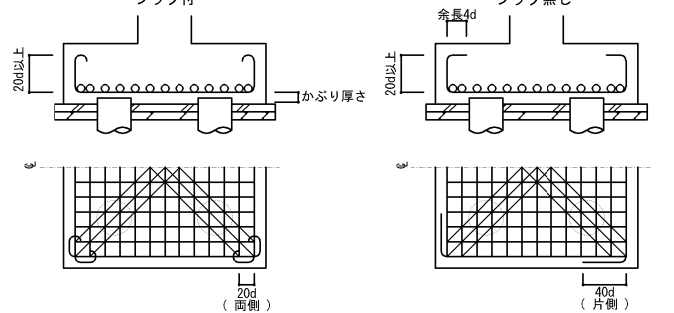


４．基礎

（１）直接基礎

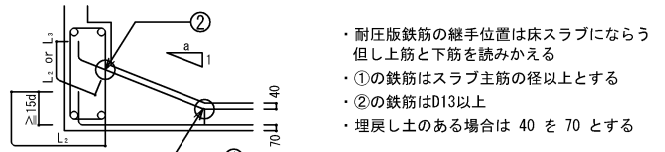


（２）杭基礎

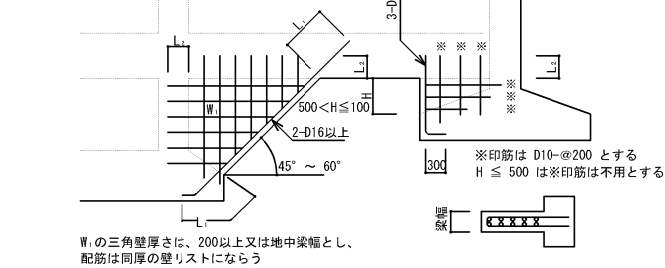


（３）べた基礎

ハンチを付けた場合 (a ≥ 3)

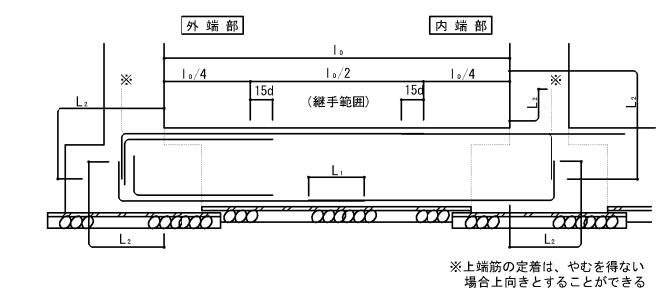


（４）基礎接合部の補強

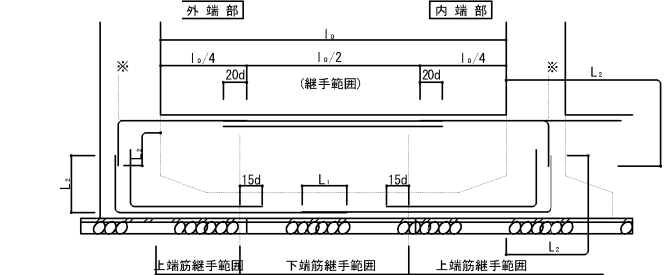


５．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

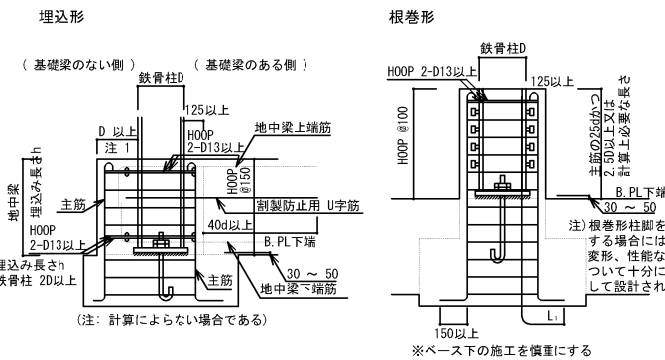


（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

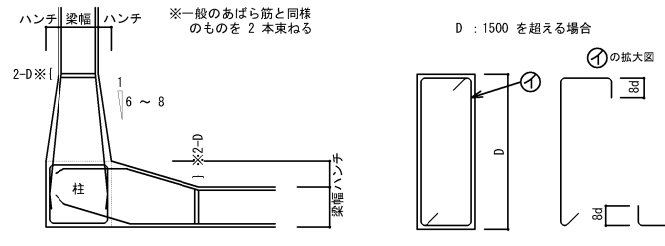


（３）小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋

※地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する

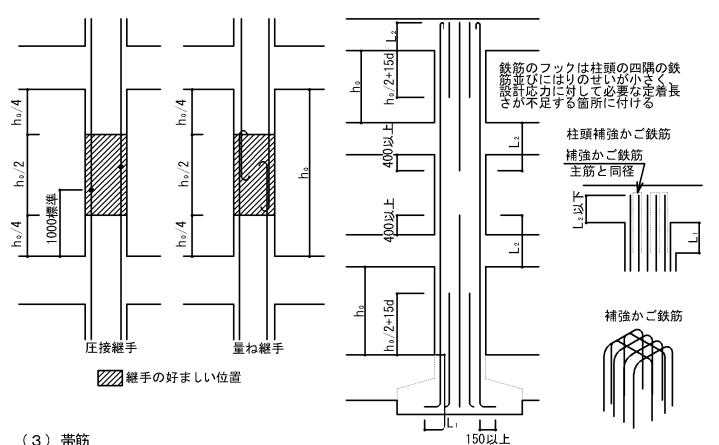


（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

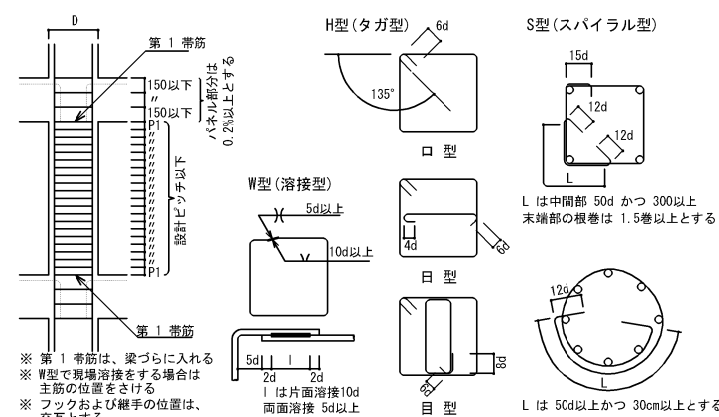


６．柱

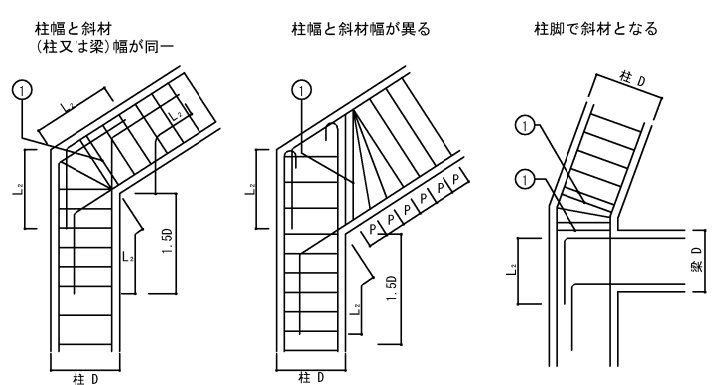
（１）柱主筋の継手



（３）帯筋

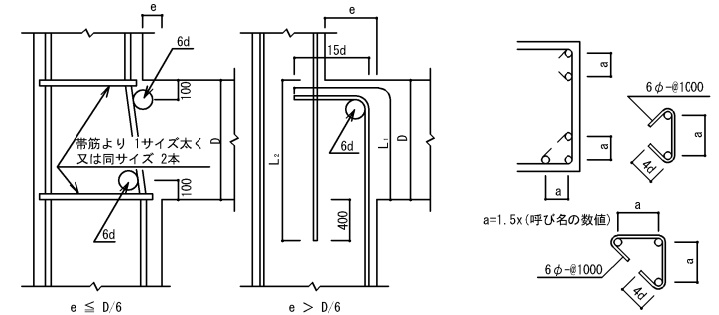


（４）斜め柱・斜め梁

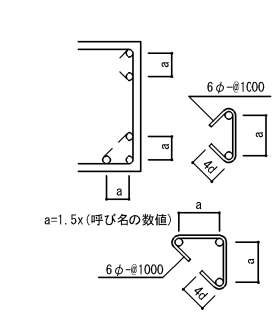


※1.5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし @100以下とする
※①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

（５）絞り



（６）二段筋の保持



鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

大梁

小梁の定着

片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

(4) あばら筋の型 (注 床板がない場合は 135° 以上のフックとする)

(5) 幅止め筋の本数、加工

8. 床板

(1) 定着および継手
片持ち床スラブ 一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強 (開口の径500程度の場合)

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強 (ダマ穴打継面について)

9. 壁

(1) 定着

・梁に

・柱に (平面図)

(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)

完全スリット

部分スリット

(3) 手摺、パラベット

手摺

パラベット

(4) コンクリートブロック帳壁

一般の場合

下部防水立上りのある場合

10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

ハッチ部分の面積Acm²

補強タテ筋	A < 500	500 ≤ A < 1000	1000 ≤ A < 1500
3-D16	4-D16	6-D16	

※柱と同径、同ピッチとする。

(2) 梁

補強筋は、梁主筋の1段落し径(D16以上)とする。

あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。

腹筋 D10 ピッチは、梁の腹筋と合わせる。

D ≥ 400 の場合は補強筋を3本とする。

a は 100~200程度。

梁下増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部 (スパン 1/10以内かつ 2D以内) はさける

(2) 鉄筋標準配筋

※ 但し、φ ≤ D/3 とする

80 ≤ φ ≤ 100	100 < φ ≤ 150	150 < φ ≤ 250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST2-D13	縦筋 ST2-D13-@100	縦筋 ST2-D13-@100
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		上下縦筋 ST2-D13

φ > 250

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方

※ 部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらずに良い。

・梁幅が 40φ を超える場合は補強筋で D13 は D16 又は、2-D13 は 3-D13 と、各々読みかえる

(3) 既製品

※使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと

☐ リング型 ☐ パイプ型 ☐ 金網型 ☐ プレート型

12. 増築予定

※将来増築予定のコンクリート間仕切り部分は、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する

(1) 柱、梁

(2) 地中梁

(3) 床版、壁

基礎パッキン 20mm

※特記なき上スラブは、S 1 とする。(天端=G L+120)
 ※特記なき下スラブは、F S 1 とする。(下端=G L-1680)
 ※特記なき基礎梁は、F G 1 とする。

- | コネクタ番号 | 現場送りロコネクター | アールボルト | 個数 |
|--------|--------------------------|--------|-----|
| B15a | 特殊コネクタ(150角用) PL=12mm | 4-M12 | 30 |
| B15b | 特殊コネクタ(150角用) PL=16mm | 4-M16 | 3 |
| B15c | 特殊コネクタ(150角用) PL=16mm | 4-M16 | 3 |
| B1518a | 特殊コネクタ(150×180用) PL=12mm | 4-M12 | 2 |
| B1524a | 特殊コネクタ(150×240用) PL=12mm | 6-M12 | 8 |
| B1536a | 特殊コネクタ(150×360用) PL=12mm | 10-M12 | 2 |
| B18a | 特殊コネクタ(180角用) PL=12mm | 4-M12 | 2 |
| B21a | 特殊コネクタ(210角用) PL=12mm | 4-M12 | 2 |
| B1842a | 特殊コネクタ(180×420用) PL=22mm | 10-M20 | 2 |
| B1848a | 特殊コネクタ(180×480用) PL=25mm | 14-M20 | 2 |
| B1524b | 特殊コネクタ(150×240用) PL=16mm | 6-M16 | 23 |
| B1530b | 特殊コネクタ(150×300用) PL=16mm | 8-M16 | 4 |
| B1536b | 特殊コネクタ(150×360用) PL=16mm | 10-M16 | 3 |
| B1830b | 特殊コネクタ(180×300用) PL=22mm | 8-M20 | 4 |
| B1830b | 特殊コネクタ(180×300用) PL=19mm | 8-M16 | 2 |
| B1836b | 特殊コネクタ(180×360用) PL=22mm | 8-M20 | 4 |
| B2160b | 特殊コネクタ(210×600用) PL=32mm | 12-M30 | 8 |
| B1524c | 特殊コネクタ(150×240用) PL=19mm | 8-M16 | 6 |
| B1530c | 特殊コネクタ(150×300用) PL=19mm | 10-M16 | 2 |
| — | 鋼製束(TD鋼製束L700) | | 251 |

※Bコネクタは建て方の前日までに必ず基礎にセットして下さい。

※A・L通りの基礎梁外周面は芯から120mm(105mm+15mm)とする。
その他の基礎梁外周面は芯から105mm(90mm+15mm)とする。

断面	接合部
150x150	B15a
150x180	B1518a
150x240	B1524a
150x360	B1536a
180x180	B18a
210x210	B21a
180x300	B1830a
180x420	B1842a
180x480	B1848a

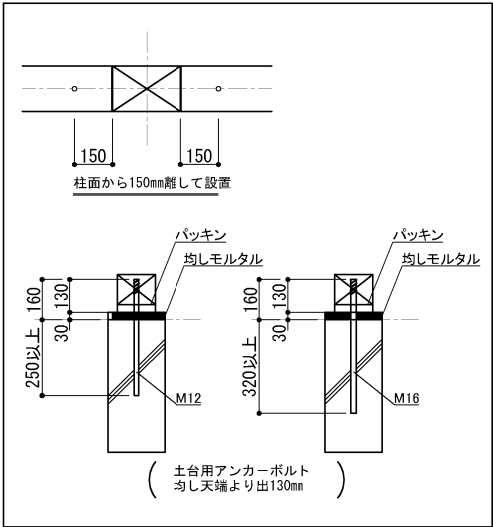
基礎梁リスト

記号	FG 1	FG 2	FG 3	FG 4	FG 5	FG 6	FG 7
b×D	250 (b) 2300 (D)	350 (b) × 2300 (D)	420 (b) × 2300 (D)	450 (b) × 2300 (D)	250 (b) × 1800 (D)	350 (b) × 1800 (D)	420 (b) × 1800 (D)
断面							
上端主筋	4-D16	4-D22	5-D22	8-D29	4-D16	4-D22	5-D16
下端主筋	4-D16	4-D22	5-D22	8-D29	4-D16	4-D22	5-D16
STP	□D10@200	□D13@100	□D13@150	□D13@150	□D10@200	□D13@200	□D13@200
腹筋	14-D10	14-D10	14-D10	14-D10	10-D10	10-D10	10-D10
巾止め筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000

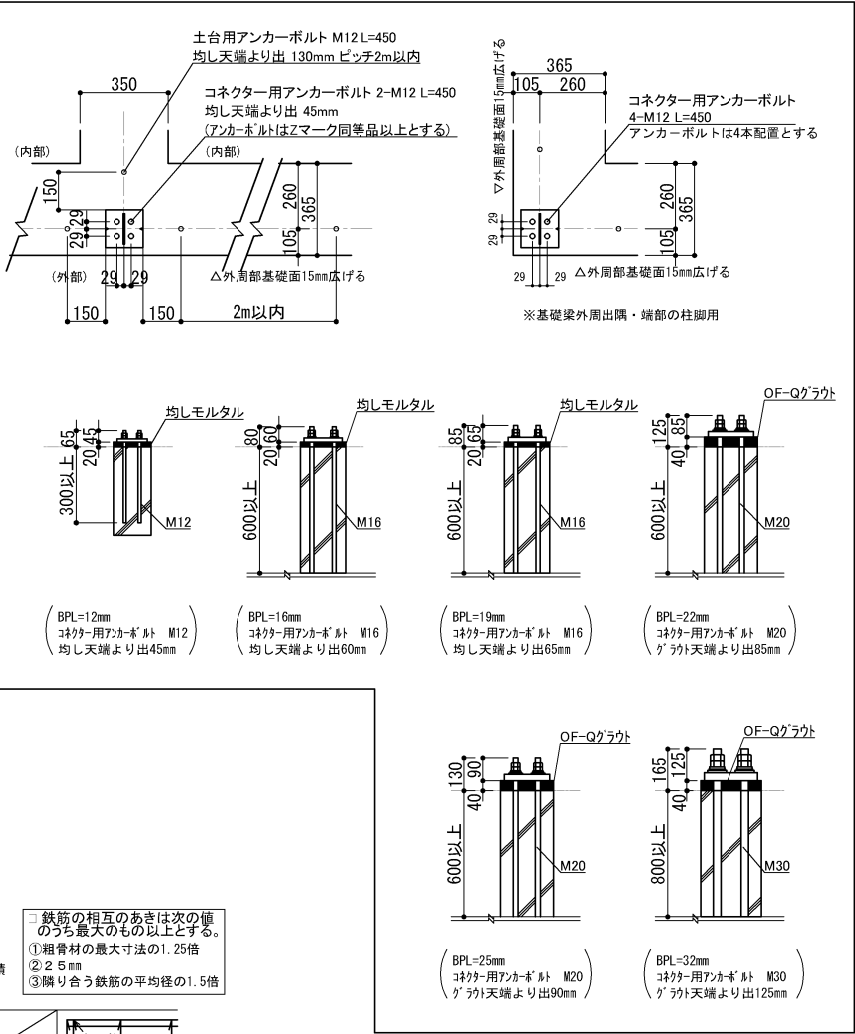
スラブリスト

	①上端筋 (下端筋間隔)
FS 1	ダブル 長辺方向 D13@200(200) 短辺方向 端部 D13@200(150) 中央 D13@200(200)
FS 2	ダブル 長辺方向 端部 D13@200(150) 中央 D13@200(200) 短辺方向 端部 D13@200(150) 中央 D13@200(200)
S 1	長辺・短辺方向 D13@200

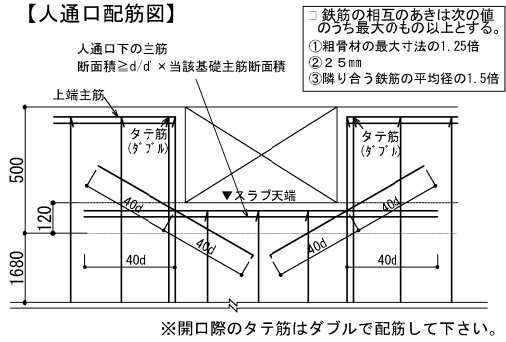
【土台用アンカーボルト設置位置】



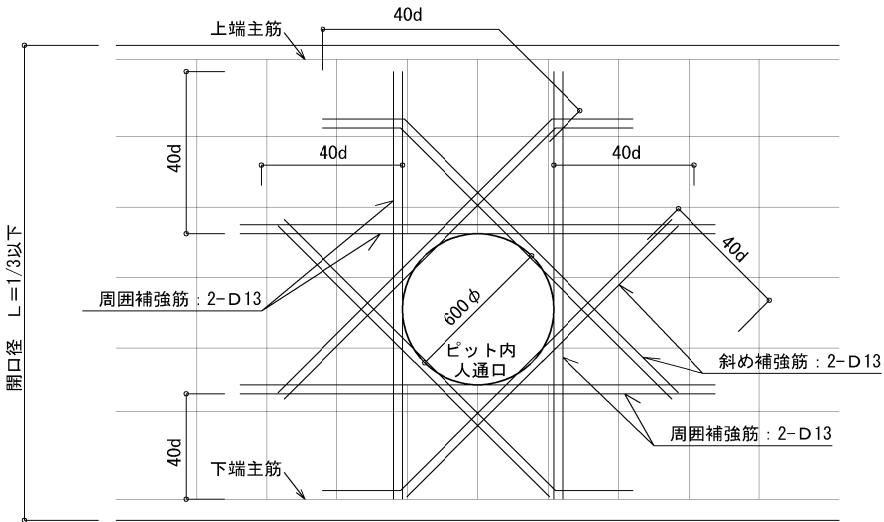
【アンカーボルト配置図】



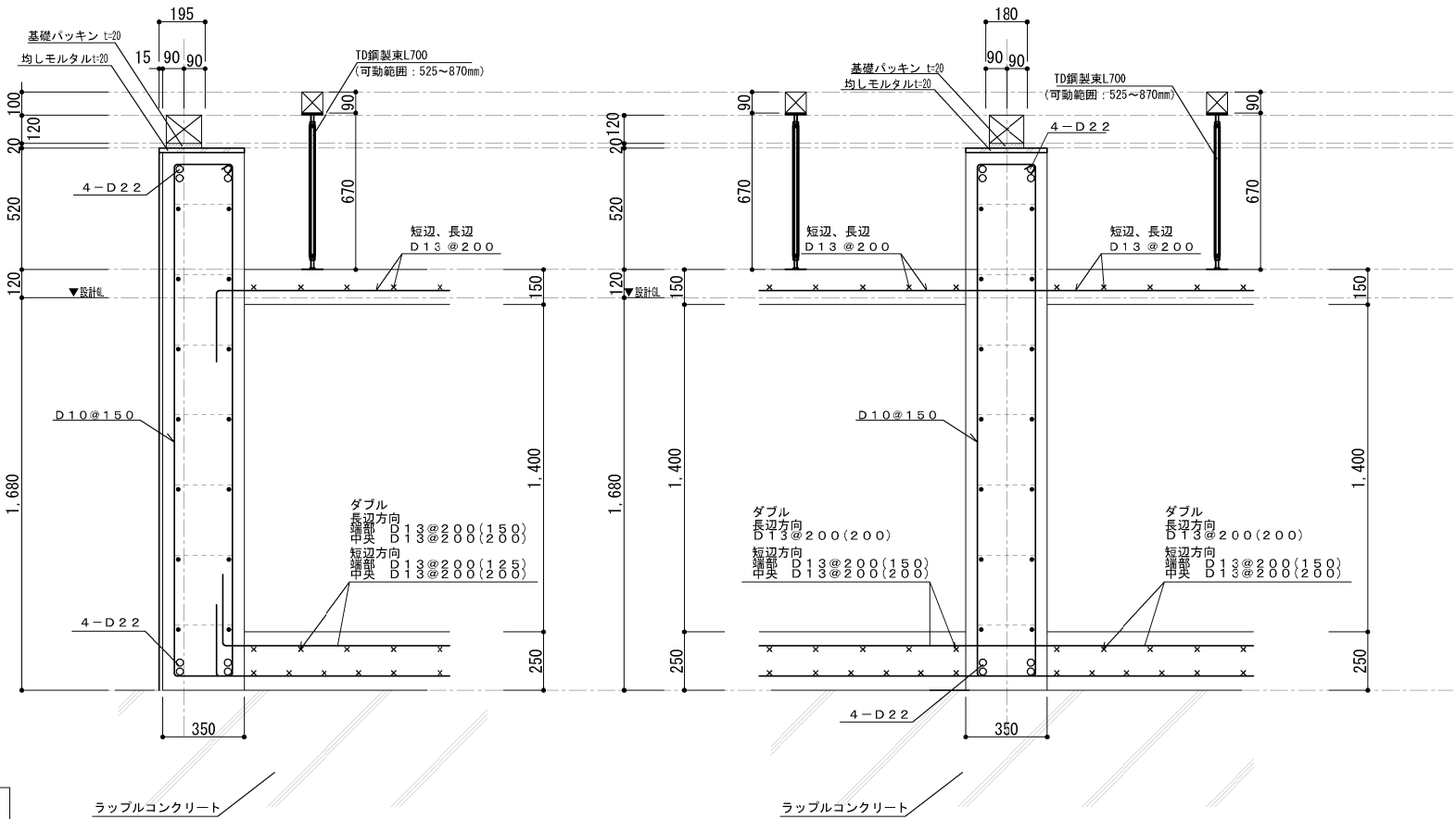
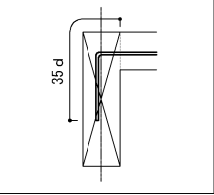
【人通口配筋図】



【ピット内人通口配筋図】人通口補強筋 (600φ)



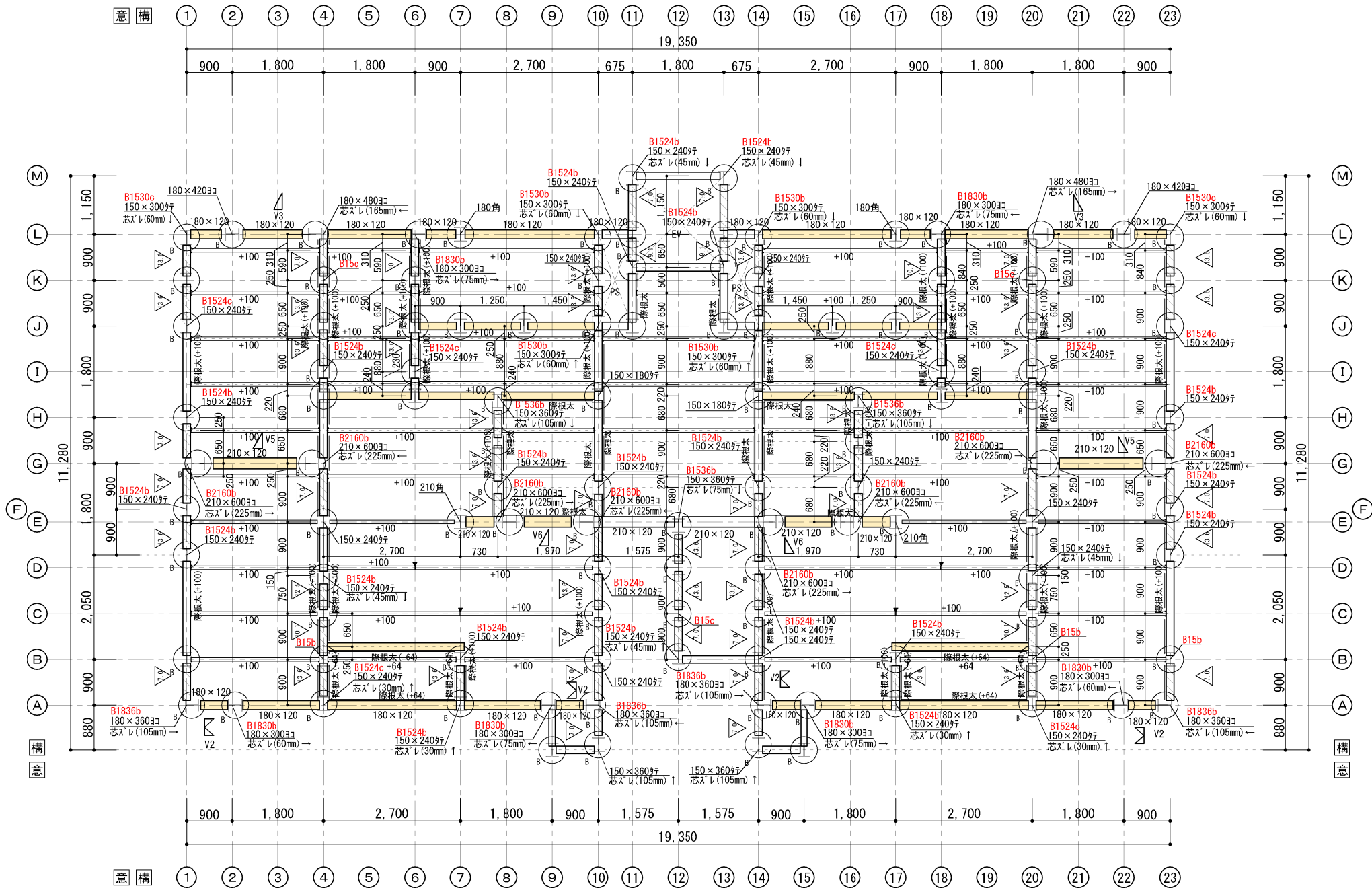
【スラブと梁の定着】



A部基礎断面図

B部基礎断面図

SD295
(D16以下)
SD345
(D19以上)
Fc=21N/mm²
地耐力=100KN/m²



1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

1時間耐火

壁合板 910×1820×12mm

床合板 910×1820×24mm

釘：N75#150(川型)
(※面材の長辺の下に梁がある場合は、当該長辺にも打ち付ける)

基礎パッキン 厚さ20mm

柱頭柱脚金物対応表

断面	接合部
150x150	B15a
150x180	B1518a
150x240	B1524a
150x300	B1530a
150x360	B1536a
180x180	B18a
180x300	B1830a
180x360	B1836a
180x420	B1842a
180x480	B1848a
210x210	B21a
210x600	B2160a

KES120仕様

指定なき土台はW150×H120（桧製材）

指定なき大引は90×90@900（桧製材）

指定なき柱は150×150（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき平柱の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

▲印は大引継手位置

はブレース V1-180×180（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V2-180×240（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V3-180×300（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V4-210×210（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V5-210×480（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V6-210×600（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき柱頭柱脚金物は、柱頭柱脚金物対応表を参照

際根太は45×120（杉製材）

はパッキン（幅は土台、大引きに合わせる）（桧製材）

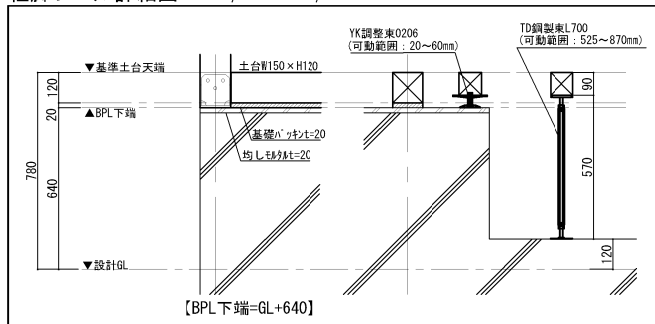
指定なきパッキンはH=100

耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
▽3.6	13.6倍	<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
▽2.5	12.5倍	<大壁側> 6.25倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.25倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
▽0.7	10.1倍	<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#90mm以下	
▽0.7	9.1倍	<大壁側> 5.8倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#90mm以下	
▽0.7	7.0倍	<大壁側> 3.7倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#90mm以下	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#90mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75#200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

柱脚レベル詳細図 A1:1/15 A3:1/30



KESコネクター凡例

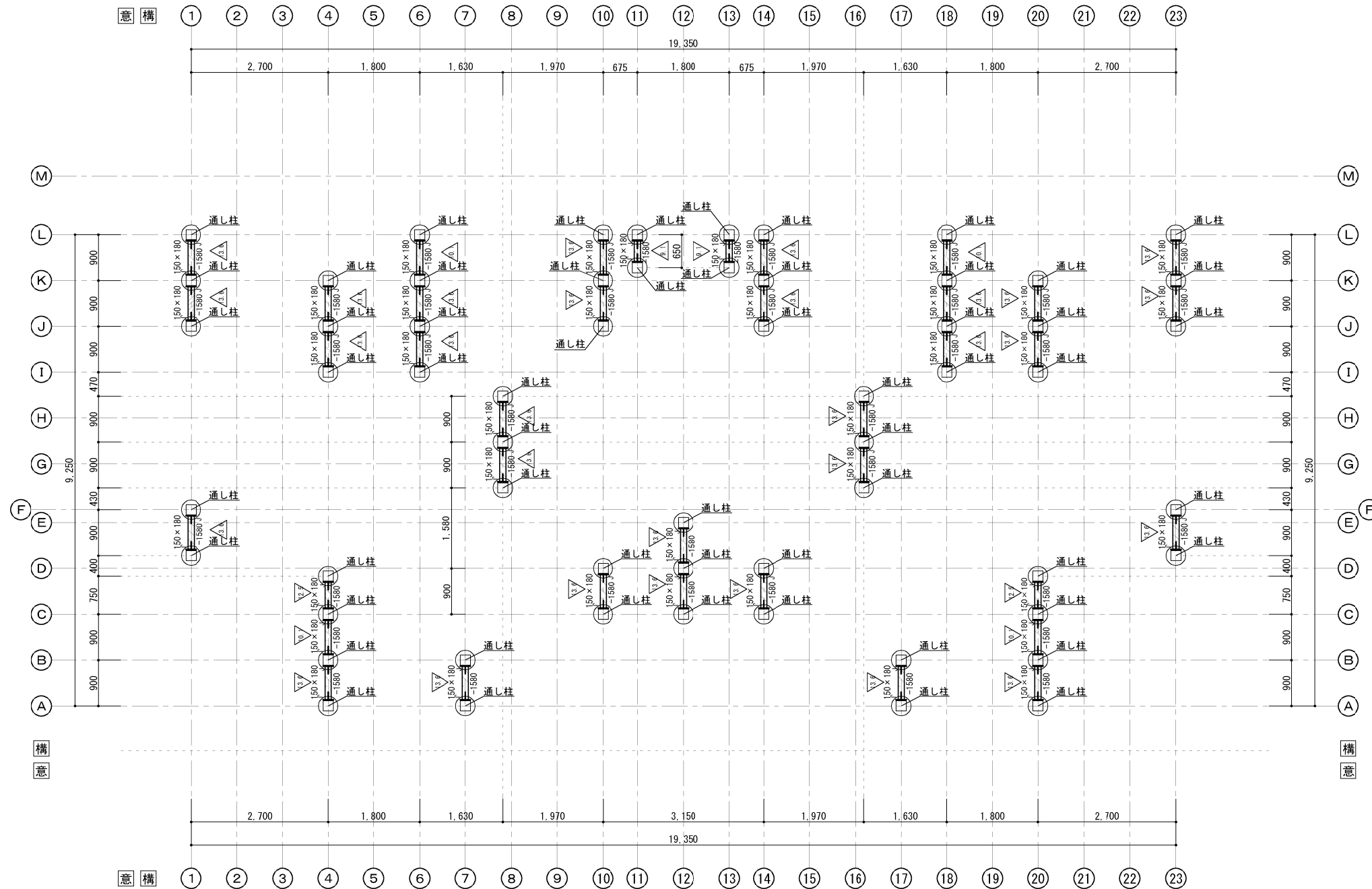
柱記号とコネクター記号	柱通しの場合	梁通しの場合	梁記号とコネクター記号
その階から上に伸びる柱			
その階で止まる柱			

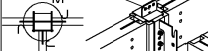
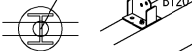
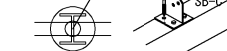
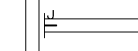
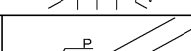
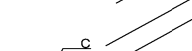
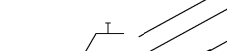
断面	梁端部金物
150x180	JM1518

壁合板 910×1820×12mm

小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
3	13.6倍	<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
2.5	12.5倍	<大壁側> 6.25倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.25倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
0	10.1倍	<大壁側> 6.77倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	
0.1	9.1倍	<大壁側> 5.8倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	



柱記号とコネクター記号		柱通しの場合		梁通しの場合				梁記号とコネクター記号
	その階から上に伸びる柱	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号
	その階で止まる柱	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号

1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

柱頭柱脚金物対応表

断面	接合部
150x150	B'5a
150x180	B1518a
150x240	B1524a
150x360	B1536a
180x180	B'8a
180x240	B1824a
180x300	B1830a
180x420	B1842a
210x210	B21a
210x600	B2'60a

梁端部金物対応表

断面	梁端部金物
150x180	JM1518
150x240	JM1524
150x300	JM1530
150x360	JM1536
180x240	JM1824
180x300	JM1830
210x210	JM2121

1時間耐火

壁合板 910×1820×12mm

床合板 910×1820×24mm

釘：CN75φ15C白型
その他：N75φ150川型（※面材の長辺の下に梁がある場合は、当該長辺にも打ち付ける）

小梁タイプ

KES120仕様

指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

指定なき小梁は105×180@900（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき柱は150×150（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき平柱の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

はブレース V1-180×180（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V2-180×240（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V3-180×300（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V4-210×210（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V5-210×480（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V6-210×600（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき柱頭柱脚金物は、柱頭柱脚金物対応表を参照

小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

際根太は45×120（杉製材）

はパッキンH=100（幅は梁に合わせる）

耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
V3.2	13.2倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
V2.2	12.2倍	<大壁側> 6.10倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<大壁側> 6.10倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
V9.9	9.9倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ90mm以下	
V9.0	9.0倍	<大壁側> 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ90mm以下	
V7.0	7.0倍	<大壁側> 3.7倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ90mm以下	
V6.6	6.6倍	<真壁側> 3.3倍 ※両面真壁	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ90mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75φ200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号	柱通しの場合	梁通しの場合	梁記号とコネクター記号
その階から上に伸びる柱			
その階で止まる柱			

1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

梁端部金物対応表	
断面	梁端部金物
150x180	JM1518

1時間耐火
壁合板 910×1820×12mm

KES120仕様
指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270
小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

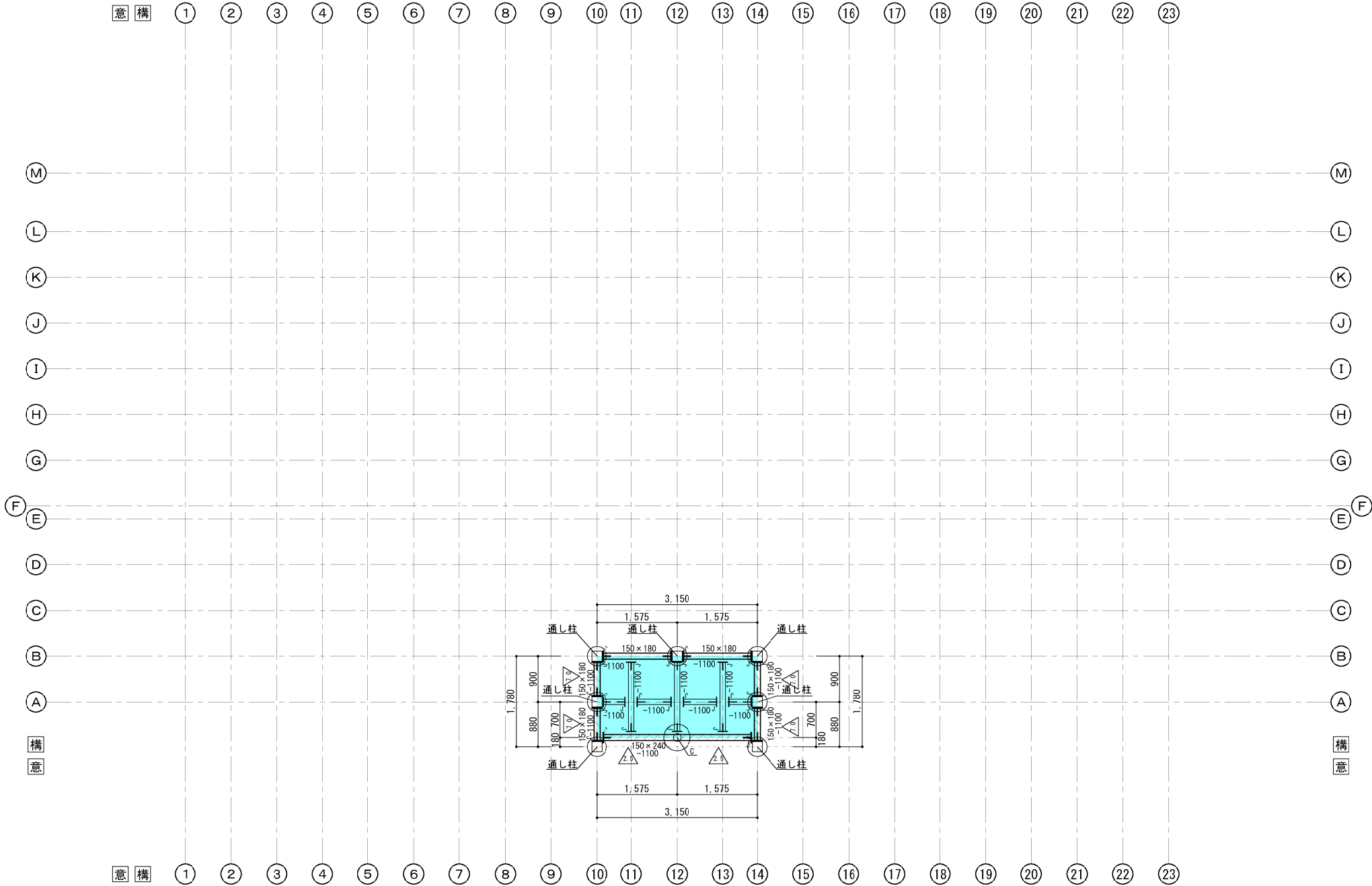
耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す				
凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様
3.2	13.2倍	＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
2.2	12.2倍	＜大壁側＞ 6.10倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜大壁側＞ 6.10倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
9.9	9.9倍	＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
9.0	9.0倍	＜大壁側＞ 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号	柱通しの場合		梁通しの場合				梁記号とコネクター記号
その階から上に伸びる柱	伏図表記記号 B120	伏図表記記号 M120	伏図表記記号 SPT10	伏図表記記号 C	伏図表記記号 B120	伏図表記記号 C.C.	伏図表記記号 SB-C
その階で止まる柱	伏図表記記号 C	伏図表記記号 P	伏図表記記号 SPT10	伏図表記記号 P.P	伏図表記記号 C	伏図表記記号 B120	伏図表記記号 SB-C

※梁上下、T・Tの場合 T・Tの場合あり



1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

柱頭柱脚金物対応表	
断面	接合部
150x150	B15a

1 時間耐火

壁合板 910×1820×12mm

床合板 910×1820×24mm

釘：CN75@150旧型
その他：N75@150旧型（※面材の長辺の下に梁がある場合は、当該長辺にも打ち付ける）

小梁タイプ

梁端部金物対応表	
断面	梁端部金物
150x180	JM1518
150x240	JM1524

KES120仕様
指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270
指定なき柱は150×150(唐松集成対称異等級E95-F270)
指定なき柱頭柱脚金物は、柱頭柱脚金物対応表を参照
小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

耐力壁凡例					は耐力壁位置を示す
凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	7.0倍	＜大壁側＞ 3.7倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@60mm以下	
		＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@60mm以下	
	2.5倍	＜大壁側＞ 2.5倍(合板)	構造用合板 12mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号		柱通しの場合		梁通しの場合				梁記号とコネクター記号
	その階から上に伸びる柱							
	その階で止まる柱							

1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

柱頭柱脚金物対応表

断面	接合部
150x150	B'5a
150x180	B1518a
150x240	B1524a
150x360	B1536a
180x180	B'8a
180x240	B1824a
180x300	B1830a
210x210	B21a
210x300	B2'30a
210x360	B2'36a
210x420	B2'42a
210x600	B2'60a

梁端部金物対応表

断面	梁端部金物
150x180	JM1518
150x240	JM1524
150x300	JM1530
150x360	JM1536
180x240	JM1824
180x300	JM1830
210x210	JM2121

1時間耐火

壁合板 910×1820×12mm

床合板 910×1820×24mm

釘：CN75#15C目型
その他：N75#150川型（※面材の長辺の下に梁がある場合は、当該長辺にも打ち付ける）

小梁タイプ

KES120仕様

指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

指定なき小梁は105×180@900（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき柱は150×150（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき平柱の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

はブレース V1-180×180（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V2-180×240（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V3-180×300（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V4-210×210（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V5-210×480（唐松集成対称異等級E95-F270）

はブレース V6-210×600（唐松集成対称異等級E95-F270）

指定なき柱頭柱脚金物は、柱頭柱脚金物対応表を参照

小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

際根太は45×120（杉製材）

はパッキンH=100（幅は梁に合わせる）

耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
▽3.2	13.2倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<小壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
▽9.9	9.9倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#60mm以下	
▽9.0	9.0倍	<大壁側> 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#60mm以下	
▽7.0	7.0倍	<大壁側> 3.7倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#60mm以下	
		<真壁側> 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#60mm以下	
▽6.6	6.6倍	<真壁側> 3.3倍 ※両面真壁	構造用合板 12mm	外周部 CN50#75mm以下 中通り CN50#150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90#60mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75#200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号	柱通しの場合	梁通しの場合	梁記号とコネクター記号
その階から上に伸びる柱			
その階で止まる柱			

1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

梁端部金物対応表	
断面	梁端部金物
150x180	JM1518

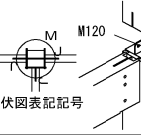
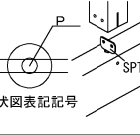
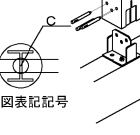
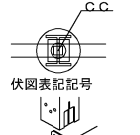
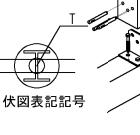
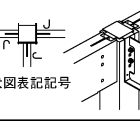
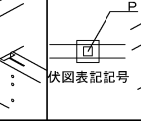
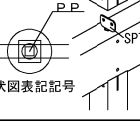
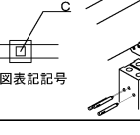
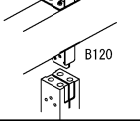
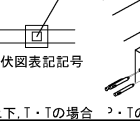
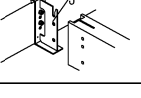
1時間耐火
壁合板 910×1820×12mm

KES120仕様
指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270
小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

耐力壁凡例  は耐力壁位置を示す				
凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様
	13.2倍	＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
	9.9倍	＜大壁側＞ 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下
	9.0倍	＜大壁側＞ 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照
		＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 12mm	外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75φ200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号		柱通しの場合		梁通しの場合				梁記号とコネクター記号
	その階から上に伸びる柱	 伏図表記記号 B120	 伏図表記記号 M120	 伏図表記記号 P	 伏図表記記号 C	 伏図表記記号 C.C.	 伏図表記記号 T	 伏図表記記号
	その階で止まる柱	 伏図表記記号	 伏図表記記号 P	 伏図表記記号 P.P	 伏図表記記号 C	 伏図表記記号 B120	 伏図表記記号 T	 伏図表記記号

※梁上下、T・Tの場合 ㊦・Tの場合あり

1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

柱頭柱脚金物対応表	
断面	接合部
150x150	B'5a
150x180	B1518a
150x240	B1524a
150x360	B1536a
180x180	B'8a
210x210	B21a

梁端部金物対応表	
断面	梁端部金物
150x180	JM1518
150x240	JM1524
150x300	JM1530
150x360	JM1536
180x240	JM1824
180x300	JM1830
210x210	JM2121

KES120仕様

指定なき梁の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

指定なき束は150×150(唐松集成対称異等級E95-F270)

指定なき平柱の樹種は唐松集成対称異等級E95-F270

----- は水平ブレース SV16

はブレース V1-180×180(唐松集成対称異等級E95-F270)

はブレース V2-180×240(唐松集成対称異等級E95-F270)

はブレース V3-180×300(唐松集成対称異等級E95-F270)

はブレース V4-210×210(唐松集成対称異等級E95-F270)

はブレース V5-210×480(唐松集成対称異等級E95-F270)

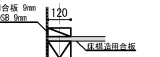
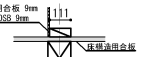
はブレース V6-210×600(唐松集成対称異等級E95-F270)

指定なき柱頭柱脚金物は、柱頭柱脚金物対応表を参照

小梁を除く指定なき梁端部金物は、梁端部金物対応表を参照

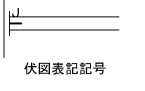
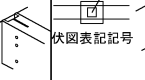
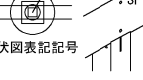
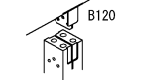
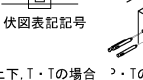
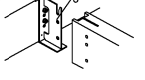
根太2-45×120は45×120(杉製材)2材合わせ

耐力壁凡例  は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	<真壁側> 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 12mm	外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ100mm以下	
	2.5倍	<大壁側> 2.5倍(合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネ(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ200mm以下	
	2.5倍	<真壁側> 2.5倍(合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネ(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ200mm以下	

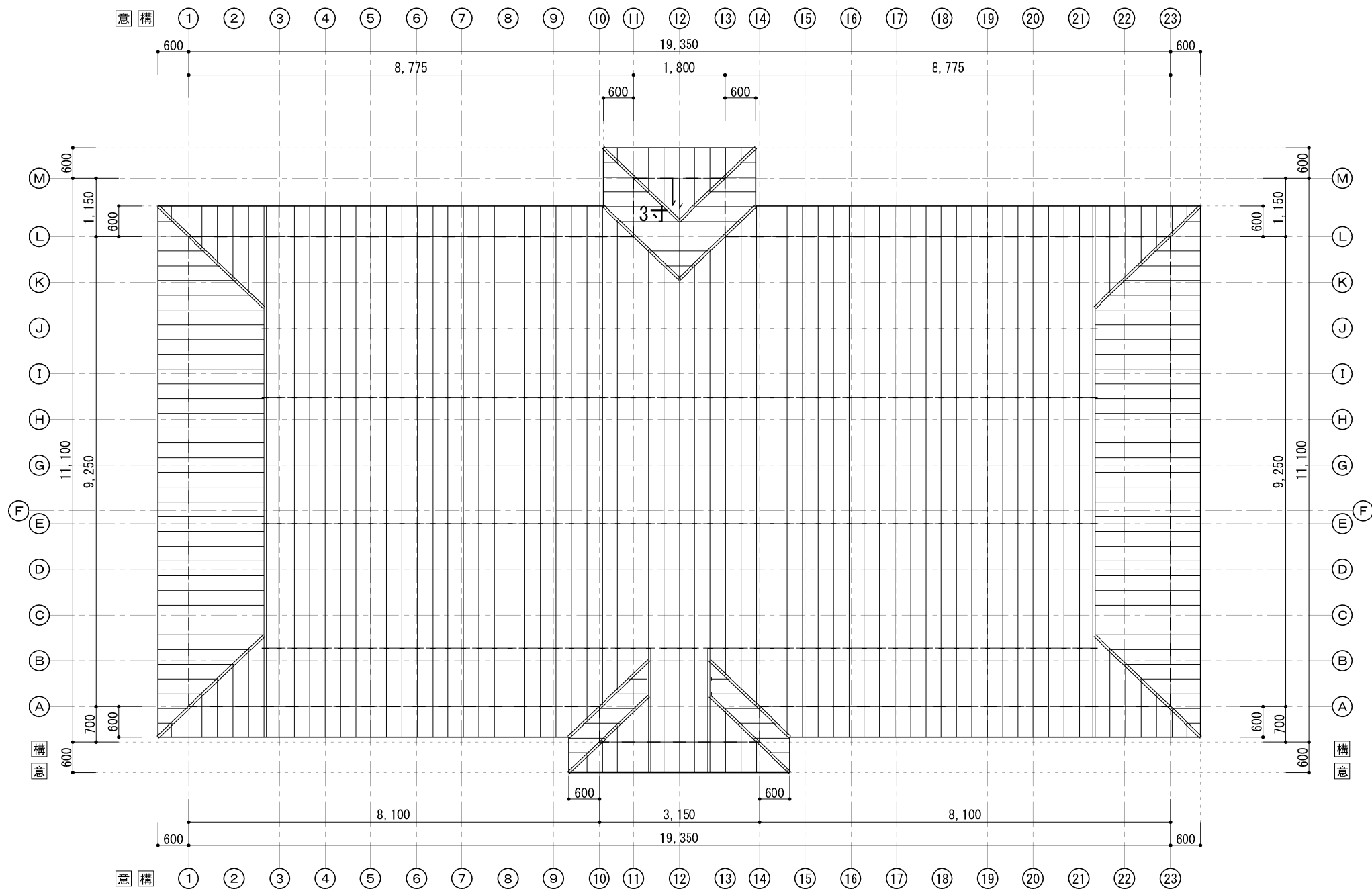
※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号		柱通しの場合		梁通しの場合				梁記号とコネクター記号
	その階から上に伸びる柱							
	その階で止まる柱							

※梁上下、T・Tの場合 T・Tの場合あり

特記	測量年月日	作成年月日	訂正年月日	TAKAHASHI ARCHITECTS-ENGINEERS	管理建築士 一級建築士登録 275483	設計	製図	検図	設計NO.	名称	図面NO.
				株式会社 高橋建築設計事務所	高橋潤				階段 A1: \$1/50 A3: \$1/100	会津森林管理署南会津支署南会津宿舍新築工事 4階小屋伏図	S-21

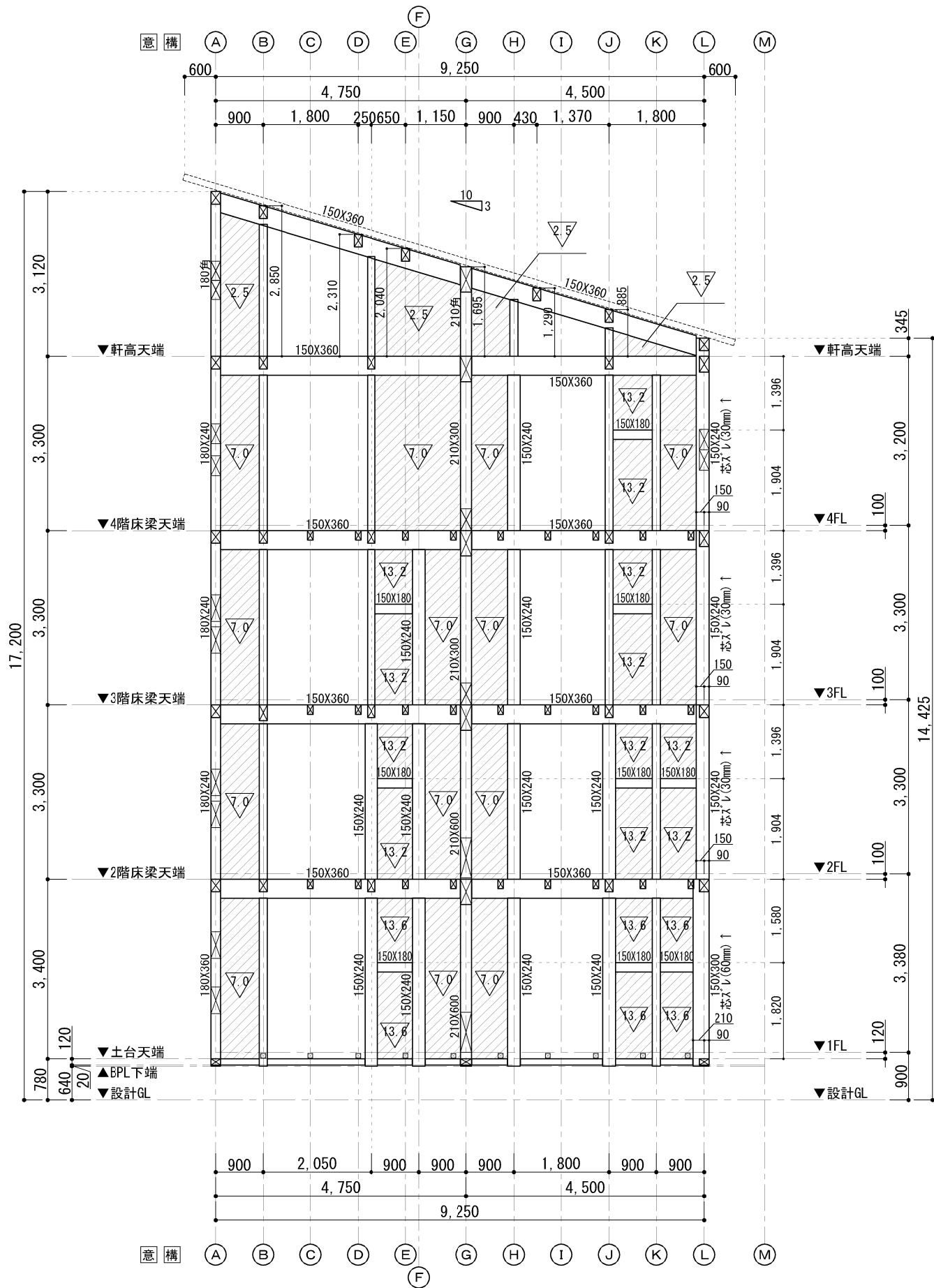


1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0

1時間耐火

野地合板 910×1820×12mm
釘：CN50@150川型

KES120仕様
垂木は45×120@303.33(杉製材)
クラハ 垂木45×120は軒先から@303.33(杉製材)
クラハ 補強材は2-45×120(杉製材)
3寸勾配はクラハッギン有り



構造軸組図 (1通り)

耐力壁凡例		は耐力壁位置を示す									
凡例	壁倍率	各面の仕様		面材の仕様		釘の仕様		納まり参考図			
1F	13.6倍	1F	13.2倍	<大壁側> 6.77倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	13.6倍	1F	13.2倍	<大壁側> 6.77倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	12.5倍	1F	12.2倍	IF <大壁側> 6.25倍	<大壁側> 6.09倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	12.5倍	1F	12.2倍	IF <大壁側> 6.25倍	<大壁側> 6.09倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	10.1倍	1F	9.9倍	IF <大壁側> 6.77倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	10.1倍	1F	9.9倍	IF <大壁側> 6.77倍	<大壁側> 6.60倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	9.1倍	1F	9.0倍	IF <大壁側> 5.80倍	<大壁側> 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
1F	9.1倍	1F	9.0倍	IF <大壁側> 5.80倍	<大壁側> 5.66倍	構造用合板 12mm	※高倍率耐力壁詳細図参照				
7.0倍	7.0倍	<大壁側> 3.7倍		構造用合板 12mm		外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
7.0倍	7.0倍	<大壁側> 3.7倍		構造用合板 12mm		外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
6.6倍	6.6倍	<真壁側> 3.3倍		構造用合板 12mm		外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
6.6倍	6.6倍	<真壁側> 3.3倍		構造用合板 12mm		外周部 CN50φ75mm以下 中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ60mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
5.0倍	5.0倍	<大壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ100mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
5.0倍	5.0倍	<大壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ100mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
5.0倍	5.0倍	<真壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ100mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
5.0倍	5.0倍	<真壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ100mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
2.5倍	2.5倍	<大壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ200mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				
2.5倍	2.5倍	<大壁側> 2.5倍		構造用合板 12mm		外周部・中通り CN50φ150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90φ200mm以下	※高倍率耐力壁詳細図参照				

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

- 1F階高：3400.0
2F階高：3300.0
3F階高：3300.0
4F階高：3300.0
- 1時間耐火
壁合板 910×1820×12mm
基礎ハッキン 厚さ20mm
小梁タイプ
床合板 910×1820×24mm
釘：N75@150川型
釘：CN75@150日型、N75@150川型
野合板 910×1820×12mm
釘：CN50@150川型
- KES120仕様
指定なき土台はW150×H120 (桧製材)
指定なき大引は90×90@900 (桧製材)
指定なき柱・小屋束は150×150 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
指定なき平柱の樹種は唐松集成材対称異等級E95-F270
指定なき梁の樹種は唐松集成材対称異等級E95-F270
垂木は45×120@303.33 (杉製材)
ケハ 垂木45×120は軒先から@303.33 (杉製材)
ケハ 補強材は2-45×120 (杉製材)
3寸勾配は外ハッキン有り
ブレース V1-180×180 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
ブレース V2-180×240 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
ブレース V3-180×300 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
ブレース V4-210×210 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
ブレース V5-210×480 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
ブレース V6-210×600 (唐松集成材対称異等級E95-F270)

